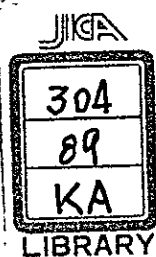


イ ラ ン の 水 産 業

—開発途上諸国の水産事情—

昭和 4 6 年 3 月

海外技術協力事業団
総 務 部



国際協力事業団

受入 月日	'84. 3. 28	307
		89
記録No.	02159	KA

は し が き

海外技術協力事業団はこのたび、近年の開発途上国水産業に対する内外の関心の高まりに鑑み、資料として、開発途上諸国の水産事情シリーズを刊行することいたしました。

これまで、わが国の開発途上国の水産業に対する技術協力はインド、セイロン等における水産センターをはじめとして、イラン、セイロン等への専門家の派遣（27カ国、203名）、沿岸漁業コース（三崎センター）、水産研究コース等による研修員（915名）の受入れ、さらには地域協力の一環としての東南アジア漁業センター（タイ、シンガポール）に対する協力等、きわめて多様かつ大量にのぼっております。従って、その間蓄積された資料も少なからぬものとなっており、そのいくつかはすでに、報告書として逐次発表されて参りました。

本シリーズはこうした経験をふまえ水産庁派遣専門家各位の協力のもとに新たな総合的観点に立って、国別資料としてまとめ、関係各位の業務参考に供しようとするものであります。

もとより、執筆者の専門によって、内容、各項の間に精粗のあることは免れませんが、その点は今後順次補ってゆく予定であります。

なお、本イラン編については1967年より1970年までコロンボ計画による水産加工の専門家として、イラン・バンダルアバス漁業公社に勤務された沢田俊三氏に執筆していただきました。

最後に本シリーズの刊行のため、ご協力を賜った水産庁派遣専門家の各位に対し厚く感謝する次第です。

昭和46年3月20日

海外技術協力事業団 総 務 部 長

JICA LIBRARY



1044099[8]

イランの水産業

第1章 国民経済上における 漁業（水産業）の地位

§ 1. 国民所得上並びに就業人口に占める漁業の比重	1
§ 2. 海面漁業と内水面漁業との比重	2

第2章 漁業生産の現況

A 海面漁業	4
§ 1. 漁業における産業構造上の特徴	4
§ 2. 南北両国策漁業公社の性格とペルシャ湾並びにオーマン海における個人経営 漁業の実態	5
§ 3. ペルシャ湾並びにオーマン海における現行主要漁業	12
§ 4. 漁業に影響を及ぼすペルシャ湾並びにオーマン海の自然環境	18
B 内水面漁業	19
C 浅海養殖	19

第3章 水産物の利用状況

§ 1. 水産物の消費形態と利用配分	20
§ 2. 水産物の流通過程と取引機構	23
§ 3. 水産物の輸送状況	27
§ 4. 水産物の価格	32
§ 5. 水産物加工（水産加工業）の現状	36

第4章 水産物輸出入の動向

§ 1. イランにおける水産物の輸出	43
§ 2. イランにおける水産物の輸入	45

第5章 漁業並びにその関連施設

第6章 漁業関連産業

§ 1. 製氷業	47
§ 2. 漁具漁船関係産業	47

第7章 現地における合併企業

§ 1. ペルシャ湾における母船式エビ漁業	49
§ 2. ペルシャ湾における真珠母貝の採取並びに養殖事業	52

第8章 イランにおける水産行政

第9章 水産教育並びに調査研究

§ 1. イランにおける一般教育の現状と水産教育	55
§ 2. 水産に関する調査研究	56

第10章 漁民組織並びにその活動状況

第11章 漁業開発計画

§ 1. イランにおける産業開発の過去と現在	58
------------------------------	----

§ 2. 第4次開発計画で漁業（水産）関係事項	60
-------------------------	----

参 考 資 料	64
---------	----

巻 頭 附 図

第1図	ベルシヤ湾オーマン海における主要漁業基地	65
第2図	ベルシヤ湾東部における主要漁場並びに基地	66
第3図	気温の推移（第13表より）	67
第4図	主要漁業基地，大消費地間の交通路	68

巻 末 附 表

第69表	ベルシヤ湾産主要魚種一覧表	69～70
------	---------------	-------

第1章 国民経済上における 漁業（水産業）の地位

§ 1. 国民所得上並びに就業人口に占める漁業（水産業）の比重

◎第1表：アジア、アフリカ諸国におけるイラン国民生産額の地位

国名	年度	総生産額	1人当り	国名	年度	総生産額	1人当り
クウェイト	1966	\$ 1700000000	\$3463	サウディアラビア	1963	\$ 1120000000	\$ 172
日本	1967	115660000000	1.158	大韓民国	1967	4829000000	162
シンガポール	"	1264000000	646	タイランド	"	5079000000	155
トルコ	"	11540000000	353	セイロン	"	1796000000	153
マレーシア	1966	3057000000	314	パキスタン	1966	13106000000	125
◎イラン	1968	8160000000	280	インドネシア	"	10649000000	99
フィリピン	1967	9645000000	278	インド	"	43842000000	88
中華民国	"	3604000000	274	タンザニア	1967	843000000	69
ヨルダン	"	575000000	268	アフガニスタン	1963	874000000	60
モロッコ	"	2706000000	191				

最近のイランにおける国民総所得（総生産額をもって表示）と1人当りの生産額がアジア、アフリカ諸国の間に占める地位は第1表の通りであり、更にその各業種別による生産額の中漁業、即ちそれに附随する加工業をも含む水産業全体としての生産額の占める比重は第2表並びに第3表に記載の通りとなる。即ち水産業の占める生産比重は現在尚、農、林、畜、水産、所謂農産関係の中にあっても1%に達

◎第2表：最近各生産額の推移（国立中央銀行）

※生産額単位：100万リアル（Rls. 7575 = \$ 1）

せず、それをこの国全生産に照して見る時には0.2%にも及ばぬ結果となる。

（因にこれ等表中の数字を含め以後に紹介する数字についても、当該数字を含む統計資料の出所を異にする場合、同一項目を表す数字にあっても各資料の間に往々にして少差のあることが

生産別	年度	1963~4	1966~7	1967~1968	
	区分	生産額	生産額	生産額	比率
石油並その製品		73,800	98,700	121,400	% 23.7
農、林、畜、水産物		89,800	105,800	109,400	21.3
サービス業		61,000	94,500	103,900	20.2
工業製品		38,700	52,500	59,300	11.7
金融、商業		35,000	47,000	51,400	10.0
電力その他		19,000	28,400	35,000	6.8
交通、通信		27,800	29,200	32,500	6.3
鉱産物		900	1,300	1,400	—
総生産額		351,000	457,400	513,300	100

避けられない)。

1966年度の国勢調査によるイランの人口は第4表に示す通りであり、この中約半数に及ぶ人口が農、林、畜、水産業の何れかに生活の拠り処をもっている。水産就業人口に限る場合は、カスピ海沿岸についての数字の入手が不能であったためその正確を期し得ないものの、1960年度調査の際のペルシャ湾沿岸地域の人口より第4表に記載の通り約120万人と推定され、この中その約40%に当る48万人が都市部を離れた

地域に居住して漁業乃至農漁の兼業に従っているものと見て良い。即ちペルシャ湾沿岸のみに関する数字を以てすればイラン総人口の2%弱が漁業に就いているものと見られ、これに現在入手不能となっているカスピ海沿岸における就業人口の数字を加えるとしても、全国における漁業就業人口の比重はさして高くなるとは考えられない。

上記の数字に表される通り、その生産額においても又就業人口にあっても、漁業は現在尙この国総生産中において高い比重を占めていることは決して言えない。このことは、1908年に石油の本格的生産を見るに至るまでイランの経済が何れかと言えば農業に大きい比重をもって依存して来た名残りともし解せようが、近年政府は漁業を含む第1次産業に対しても積極的な保護育成の手を差し延べているので、第11章に後述する通りその開発も着実に進められて行くものと思われる。

§ 2. 海面漁業と内水面漁業との比重

カスピ海を除くイラン国内の湖沼の大方は高原砂漠地帯に散在する鹹水性のものであり(第4

◎第3表：1966年農産関係生産高(企画庁)

※第2表、第3表間の総計に少差のあるは統計資料の出所が異なることに因る。

区 分 生産別	生産高	金 額	
	単位：トン	100万リアル	比率
農産物、林産物	11,437,160	71,770	%63.7
畜産物	2,168,187	39,793	35.4
水産物(ペルシャ湾)	10,000	1,057	0.9
〃(カスピ海)	5,000		
計	13,620,347	112,620	100

◎第4表：イランの人口(1966年度人口調査、但しペルシャ湾人口は1960年度調査よりの推定)

区 分	全 国	ペルシャ湾沿岸
都市部	9,820,922	720,000
群 部	15,318,231	480,000
計	25,139,153	1,200,000

◎第5表 :イランにおける主要漁業の分布

※カジキ類は食慣習なきため積極的漁獲の対象とはならず混獲

地 域	業 種	摘 要 (対 象 魚)
北部河川、湖沼	ふ化養殖	ニジマス年間約100万尾収獲、500万卵ふ化
カ ス ビ 海	漁 業	チョウザメ、サケ、ニシン、ホワイトフィッシュ、その他
	ふ化養殖	チョウザメ
ペルシヤ湾並びに オーマン海	流 網	マグロ、カツオ類、サワラ類、アジ類、カジキ類※
	金 網 籠	タイ類、ハダ類、アジ類、マナガツオ、キヌチ
	地 曳 網	サッパ、キス、ボラ、サヨリ、その他
	旋 刺 網	サッパ、その他
	底 曳 網	エビその他、他に母船式エビ漁業
	1 本 釣	底魚類、マスカットオーマン沿岸

図)、従ってこの国においては厳密な意味において内水面漁業と認められるものは現在尙存在しないといえよう。ただ、第5表に示す通り近年国内北部地域の1部河川湖沼を利用してニジマスのふ化養殖が試みられて来ているが特筆すべき数字には上っていない。従ってこの国における現行漁業の大宗をなすのはカスピ海沿岸におけるものと、ペルシヤ湾並びにオーマン海沿岸におけるものとであり、両者の生産高は前記に記載の如く年間夫々5,000トン、10,000トンと記録されている。但し、近年カスピ海沿岸、別してそのソビエト側における工英の急速な発展によるチョウメザの減産と共に、従来この国水産の代表格と認められて来ているCaviarの生産に大きな影響が与えられ、ためにこの地域の漁業生産は減少の傾向にある。これに対しペルシヤ湾並びにオーマン海における漁業は、政府の南イラン開発計画の1環として取り上げられていることもあり、逐次その占める比重を高めて来ている。

第2章 漁業生産の現況

A 海面漁業

§1. 漁業における産業構造上の特徴

◎第6表：従業員数10以上の工場数（1965，鉱工業統計局），
表中（）内は従業員100以上の工場数

イランにおける従業員

数10を越える工場企業

を業種別にあげると第6

表の通りとなり，これよ

り漁業，製氷を含む食品

関係を取り出して見ると

種 別	工 場 数	種 別	工 場 数
鉱 業 関 係	299 (1)	ゴ ム 関 係	28 (5)
建 材 関 係	363 (20)	繊 維 関 係	943 (78)
金 属 機 械 電 気	327 (21)	化 学，薬品関係	95 (17)
木 材 関 係	67 (1)	食 品 関 係	459 (48)
製 紙 関 係	19 (0)	印 刷 関 係	54 (3)
皮 革 関 係	31 (6)	計	2,685 (200)

第7表に記載する内訳となる。

この国における法人，個人，共同体等，所謂漁業の経営体別による操業運営の比率についての統計的数字は現在入手不可能であるが，カスピ海，ペルシャ湾並びにオーマン海の両水域におけ

◎第7表：食品関係企業工場数（1965，鉱工業統計局）表中（）内は
従業員数100以上の工場数，毎工場については主たる製品
により夫々区分

区 分	種 別	工 場 数	区 分	種 別	工 場 数
農 産 関 係	乾 果	64 (6)	畜 産 関 係	屠 殺，冷 蔵	7 (4)
	缶 詰	12 (0)		缶 詰	2 (1)
	製 粉	64 (1)		ソ ー セ ー ジ	2 (1)
	精 米	9 (0)		牛 乳	6 (2)
	穀 類 貯 蔵	3 (1)		アイスクリーム	7 (0)
	製パン，製菓	103 (1)	水 産 関 係	小 計	24 (8)
	砂 糖	40 (16)		漁 業，冷 蔵	2 (2)
	食 用 油	18 (6)		缶 詰	1 (1)
	製 茶	68 (0)		小 計	3 (3)
	醸 造，飲 料	38 (5)	製氷関係	製 氷	10 (0)
煙 草 そ の 他	煙 草 そ の 他	3 (1)		合 計	459 (48)
	小 計	422 (37)			

る漁業の操業運営権は2国策会社即ち、北方漁業公社（SHILAT SHOMAL, Northern Fisheries Co.）並びに南方漁業公社（SHILAT JANOUH, Persian Gulf Fisheries Co.）の手中に夫々収められており、他の法人組織乃至共同経営による企業体の存在は見られない。即ち第7表中水産関係に漁業、冷蔵工場2（2）とあるのは上記南北両漁業公社を指すものであるが、実際には後記の如く北方漁業公社はカスピ海岸のBANDAR PAHLAVYに、南方漁業公社はペルシャ湾岸のBANDAR KHORAMSHAH並びにBANDAR ABBASの両港に夫々基地乃至冷蔵工場を有しているので、表記の数字は3（3）と訂正して然るべきであろう。この両企業による以外、漁業は全て零細な沿岸漁民による専業若しくは農業兼業による個人経営の形をとっているのが現状である。この他ペルシャ湾においては1970年現在英国系並びにクウェイト系両外国資本との合併による母船式エビ漁業の操業を見ているが、この両船団による企業は貿易外収支勘定に入れられている関係もあり表中には記載されていない。（合併企業の詳細については第7章に記述）。

上記の通りカスピ海、ペルシャ湾並びにオーマン海の両水域における漁業共その操業権の一切は前出両国策公社の手にあり、外国との合併企業においては勿論、国内の漁民にあっても操業に当っては夫々の公社よりの許可（License）を必要とされる。しかも両公社の操業状態にはその技術面よりしても地元一般漁民による操業経過との間にさしたる差を認められぬ現況にあるためか、公社自体の実際操業面における体質改善を先決とする事情もあり、当分の間は他の法人組織企業に操業権を与えることは考えられず、従って両公社による独占的運営が暫くは続けられて行くものと思われる。

§ 2. 南北両国策漁業公社の性格とペルシャ湾並びにオーマン海における個人経営漁業の実態

（1）南北両国策漁業公社の性格

多少共近代的と言える漁業、即ち加工業をも含めた水産業の経営形態がイランに生れたのは約30年前（1936年頃）、時の政府がデンマークよりの技術の導入によりペルシャ湾並びにオーマン海、カスピ海の南北両水域における漁場を対象とした国策漁業会社の設立を行なった時に始まる。その後10年にしてこの国策企業は政府の方針により南北の両公社に分離され、爾來この国の南北両水域における漁業（加工を含む水産業）につき夫々独占権を与えられて現在に至っている。即ち：

(i) 北方漁業公社 (SHILAT SHOMAL, Northern Fisheries Co.)

教育省 (Ministry of Education) に相当する官庁の所管に属する国策会社の形態をとる企業で、カスピ海におけるチヌウザメ、ニシン、サケ、ホワイトフィッシュその他魚類の漁獲並びに養殖、Caviar の加工を行なうと共にこの水域における漁業権の一切を手中に収め、地元一般漁民の操業に対する許可の権限を与えられている。BANDAR PAHLAVY その他カスピ海沿岸要所に基地並びにチヌウザメふ化施設、Caviar 加工場を有する。

(ii) 南方漁業公社 (SHILAT JANOU, Persian Gulf Fisheries Co.)

軍部即ち国防省 (Ministry of National Defence) 所管の下にペルシヤ湾並びにオーマン海水域における漁業 (加工保蔵を含む水産業) 操業を対象とする国策企業で、この水域における漁業操業に関する一切の権限を与えられていることはカスピ海水域における北方漁業公社の場合と同様である。発足当初よりの目的が資源の調査開発並びにその規制、退役軍人の収

◎第8表：南方漁業公社持株配分

株 主	配 分	株 数	U. S.
国 防 省 (Ministry of National Defence)		7,500	2,000,000
赤 十 字 (Iran Red Tion Society)		7,500	2,000,000
大 蔵 省 (Ministry of Finance)		5,000	1,333,000
農 業 銀 行 (Bank of Agriculture)		1,250	333,000
そ の 他 (Others)		3,750	1,000,000
計		25,000	6,666,000

容、ペルシヤ湾における国防、軍需食糧の調達に置かれていた故もあり、その持株配分も第8表に示す通り特殊な形をとっており、又会社役員員の構成についても第9表に記載の通り軍の息が強くかかっていることが見られる。

当社は BANDAR KHAMRASHAH.

BANDAR ABBAS の両港に漁業基地並びに冷蔵庫、更に BANDAR ABBAS に魚類缶詰工場並びに魚糧工場を有し、自己において漁業を行なうと共に地元漁民による漁獲物

◎第9表：南方漁業公社役員員の構成

役 職 地 位	前歴又は現職
社 長	退役海軍中將
副社長 (専務取締役)	退役陸軍中將
漁 労 部 長	現役海軍大佐
技 術 部 長	現役陸軍少佐
BANDAR ABBAS 事業所長	退役陸軍大佐
BANDAR ABBAS 工場長	退役陸軍少尉
KHAMRASHAH 事業所長	退役海軍中佐

80%以上を購入の上冷凍乃至缶詰製品の独占的生産を行なっている。当社現有の船舶は第10表の通りで、これによっても明らかな如くその自己操業は流網、底籠定置、小型エビトロールの範囲に止まり、地元漁船よりの買付に大きい比重が置かれている現状である。もっとも1970年後半において日本よりエビ冷凍母船（マグロ運搬船を改造のもの）を購入の上本格的な母船式エビ漁業に着手することとなっているがこれについては後節に記載する。

◎第10表：南方漁業公社保有船舶（1970現在、就航末記入のものは記録なく不詳）

用途	隻数	種類	総トン	馬力	全長	巾	深	魚艀容積	冷凍機	建造地	就航
運搬	1	本船	67	200	70	18	8	11	有	カラチ	
運搬	1	"		240	70	20	10	64	有	"	1969.10
運搬、エビ底曳	1	"	30	114					無	"	
運搬	2	"	40	150	55	16	7.8	30	無	"	1969.10
流網、底籠、底曳	1	"	50	180	70				無	"	
運搬、エビ底曳	6	ランチ	5	32					無	リンダ、イラン	
エビビームトロール	1		76	320	21.5	6.1	27		有	カラチ	1970.2

(2) ペルシヤ湾並びにオーマン海における個人経営漁業の実態

イランの水産業において現在その大宗をなす且つ将来も益々その比重を大きくして行くと思われるペルシヤ湾並びにオーマン海における漁業は前記の通り国策企業たる南方漁業公社の手中にその独占権を委ねられている。しかしこれも

前節に記載の通り公社自体の保有施設が現在尚限られた範囲にあるので漁業操業の実際は沿岸住民の手に負うところが少なくない。即ち公社より操業の認可を与えられた個人経営の漁家がそれであり、現在約120万と推定される沿岸1800km

第11表 ペルシヤ湾沿岸地区職業別人口の分布
(1966年度10才以上の男子。人口調査局)

地区 (湾口→湾奥)	高級技術	高級事務	農林水産	商業サービス	交通通信	その他	計
CHAH BAHAR	0.5%	0.5%	85.1%	6.3%	2.5%	5.1%	100
JASK	0.3	0.7	74.4	8.6	8.9	7.1	100
MINAB	0.9	0.7	72.5	11.2	6.7	8.0	100
BANDAR ABBAS	1.1	2.4	55.6	15.3	12.3	13.3	100
BANDAR LENGEH	1.4	1.8	48.0	15.2	19.1	14.5	100
DASHTESTAN	0.5	1.5	86.9	4.7	0.5	5.9	100
BANDAR BUSHIRE	1.9	4.7	47.9	18.2	10.2	17.1	100
SHADEGAN	1.2	2.5	63.6	10.8	3.8	18.1	100
BANDAR ABADAN	2.9	7.6	18.8	23.4	11.5	35.8	100
KHORAMSHAH	1.7	8.9	24.0	30.9	10.6	23.9	100

の海岸線地域人口中に彼等が占める割合は第11表に記載の通りとなる。表中に農林水産とあるもこの地域の地勢上林産関係は無視出来る数字となり、従って特に密集度の高いBANDAR ABADAN, BANDAR KHORAMSHAH両地区(この両地区に沿岸全人口の約60%が集中)とその他地区との人口を勘案すれば、沿岸人口の約半数が漁業専業もしくは農漁兼業人口と推定出来る。表中沿岸東部即ち湾口地域に漁業人口の比率が高いことは後記の如くこの地区が特に好漁区となっていることを反映している。尙この漁業人口中には公社に雇傭される約200人が含まれること勿論である。

漁業の種類は第5表に記載の通りで、オーマン海よりペルシヤ湾奥部に至るイラン並びにアラビア両側の沿岸海区を④～⑥の5地区に分け、各地区における気象、漁期、漁況、漁法その他の特質を巻頭第1図と併せて第12表に記載する。この5地区中、アラビア半島先端MAZANDAM半島を中心とするイラン沿岸JASKよりLAVAN 島に至る間、即ち④⑤⑥の3地区が別して中心的な好漁場となっている(第2図)。各地区にわたり6月～9月の夏季にあつては第13表並びに第3図(巻頭)に示す通り50℃に近い高温に達するうえ、漁船に対する氷の供給が不充分のため出漁の中断乃至激減を余儀なくされる。

尙漁家を含めこの沿岸地区住民の収入は年間4,000リアル(約\$50強)、公社に雇傭される漁夫乃至作業員の場合にあつては日額60～100リアルと、決して高いものとは言えない。

(3) カスピ海における漁業の概要

北方漁業公社より操業の許可を与えられた約4,000漁民により行なわれるチョウザメ、ホワイトフィッシュ、サケ、ニシンその他の定置網漁業を主に、ROACH FISH(鯉に類似)を対象とするトロール漁業が僅かながら見られる。最近における年生産量5,000トン弱の中チョウザメ並びにホワイトフィッシュが特に重要度高く、両者共にBANDAR PAHLAVY並びにBABOLNAR 在の北方漁業公社冷蔵庫において処理加工の上テヘランを始めとする北部イラン消費地への重要な魚類の供源となっているほか、Caviar 製品はこの国唯一とも言える輸出水産物とされている。この地域における漁業は漁法、漁獲物の処理その他にソビエト技術の影響を受けている点が従来より少くない。

チョウザメについては従来の無計画な漁獲に加うるに近年におけるカスピ海沿岸(別してソビエト側)の工業化によりその減産が目立ち、例えば1924年に最高体重1,228kg(246kg抱卵)、平均体重850kgであった魚体が現在にあつては平均体重360kgと低下を見ている。このため公社においては無許可操業を極めてきびしく取り締ると共にそのふ化繁殖についても積極的態度を打出している。

第12表 ペルシャ湾、オーマン海における漁業の実態1覽表(地区、基地については第1図、第2図参照、魚種は代表的なもののみ記載)

地 区	主 要 漁 業 基 地	漁 獲			漁 獲 内 訳			漁 法		摘 要
		漁 期	天 候	漁 獲	A 級	B 級	C 級	漁 具	規 模	
(A) MUSCAT OMAN	SHUMM, HUSSA, GHUB-ALI,	10~11月	良	多	50	25	25	旋刺網	60隻, 430人	① 山岳、強風を防ぎ漁業適。各基地間の往復半日以内。
地区	SHISHA, DARI, SHERRI,	12~2月	良	稍多	15	30	55	流 網	25ヶ統	② 網はSHISHA, KUMZARで作業される。塩干魚生産あり。
(アラビア半島側)	DUHAT KHASSAB, KUMZAR,	3~5月	良	稍多	5	25	60	1本釣	40人	③ イランと統泊にあらす、MUSCATと統泊にあり。
	DARSENI,	6~9月	酷暑	少	20	25	25			④ A級魚(カマスサワラ、マナガツオ)、B級魚(ハタ、オニベ、サワラ、キヌチ)、B級魚以下(フエキ、ヒレガカレハチ)
(B) QISHM 地区	QISHM, LARAK, BANDAR ABBAS,	10~11月	良	多	25	20	25	旋刺網	25隻, 200人	① QISHM島住民の大半は漁業に従事し経済性高し。
(QISHM島を中心)	HORMUZ, RAMSHAH, MASAN,	12~2月	不良	稍多	15	50	25	流 網	15ヶ統, 120人	② 漁船小型、北東風時は出漁不能、基地間の往復半日以上。
より西方BANDAR	SUZEH, DEYRESTAN, HENGAM,	3~5月	不良	稍多	10	60	20	底 簞	80単位, 50人	③ 主生産なるサツハはBANDAR ABBASに詣りて加工。
LENGEHに至る間)	BASALDU,	6~9月	酷暑	少	20	40	20	1本釣	25人	④ A級魚(マナガツオ、カマスサワラ)、B級魚(ハタ、オニベ、サワラ、キヌチ、センネツグイ)、B級魚以下(フエキ、アジ類他)
(C) BANDAR LENGEH	LENGEH, KONAT, SHENAS, BUSTANAH,	10~11月	良	多	20	40	10	旋刺網	60隻	① 区内最高漁獲地、比較的大型船出漁、旋網はSHENAS
地区	JAZEH, CHIRU, QAIS, TAYDONEH,	12~2月	良	多	15	75	10	流 網	75ヶ統	地より上陸、陸上施設比較的良好にして魚価安定。
(BANDAR LENGEH	MAGHU, FARUR, GURZEH, CHARAK,	3~5月	良	多	20	50	20	1本釣	100人	② 東風時はMULHAM, CHARAK、北風時はGURZEHが盛産。
より西方LAVAN島	MULHAM, HENDRABY, LAVAN,	6~9月	酷暑	少	20	50	20			③ A級魚(マナガツオ、カマスサワラ)、B級魚(ハタ、オニベ、サワラ、キヌチ、センネツグイ)、B級魚以下(フエキ、アジ類他)
に至る間)										
(D) TAHERI 地区	TAHERI, NAIBAND, ASALU,	10~11月	良	多	20	40	20	旋刺網	20隻	① TAHERI沿岸は若く網は不漁、若くはAKHTARは漁。
(LAVAN島より西方	AKHTAR, MIANLU, KANGAN,	12~2月	不良	稍多	45	20	25	流 網	10ヶ統	② TAHERIよりBUSHIREに至る間は未だ未だの車道あり。
BANDAR DAYER	BANDAR DAYER,	3~5月	良	多	20	40	20	底 簞	120単位	③ 住民の大半は漁業に従事。
に至る間)		6~9月	酷暑	少	20	60	10			④ A級魚、B級魚共魚種はBANDAR LENGEH地区に同じ。
(E) KHARAT 地区	KHARAT, BANDAR BUSHIRE,	10~11月	良	多	50	20	20	旋刺網	70隻	① 特にGENAVEH地区が好漁場。
(KHARAT島を合み	HALILEH, DELVAR, BANDAR RIG,	12~2月	不良	稍多	20	20	60	流 網	25ヶ統	② ABADAN, BUSHIREの両消費地を近く、魚価高し。
西方BANDAR DILAM	GENAVEH, BANDAR DILAM,	3~5月	良	多	15	20	65	底 簞	110単位	③ A級魚(カマスサワラ)、B級魚(サワラ、ヒレコグイ、ハタ、キヌチ)、B級魚以下(フエキ、フトサイトウ、ヒレガカレハチ他)
に至る間)		6~9月	暑	稍多	20	10	60			
(F) ABADAN 地区	KHOR ABDULLAH, KHOR MUSA,	10~11月	良	多	50	10	40	旋刺網	120隻	① 漁夫200人。網長500~700m。
(ABADANを中心と	BAHREIN,	12~2月	良	稍多	20	25	45	流 網	20ヶ統	② SHATT-AL-ARAB河口沿岸の漁獲は石油臭強く、商
す湾奥部)		3~5月	良	多	40	20	40	底 網	25ヶ統	品価値著しく低下を見る。
		6~9月	暑	稍多	60	15	25			③ A級魚(カマスサワラ、ボラ)、B級魚(サワラ、ハタ、キヌチ、オニベ)、B級魚以下(タイ、オヒスダグイ他)

◎ 第13表：イランにおける月別気温（1968～1970）

※はペルシア湾もしくは紅オースマン海岸地域地名。尚巻頭第3図参照。

月 間 平 均										月 間 最 高										全 国 最 低 記 録											
全 国					B.ABBAS					全 国 地 名					全 国 最 低					B.ABBAS											
最高	最低	最高	最低	最高	最高	最低	最高	最低	最高	最高	最低	最高	最低	最高	最高	最低	最高	最低	最高	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低	最高	最低
°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	°C	
1968.	7	48.1	0.7	—	—	—	—	—	—	Abadan※	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	8	46.3	10.2	—	—	—	—	—	—	Agha Jari※	50	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	9	43.6	6.1	—	—	—	—	—	—	Abadan※	47	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	10	38.0	2.8	—	—	—	—	—	—	Agha Jari※	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	11	33.1	-0.3	—	—	—	—	—	—	Iranshahr	36	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	12	27.7	-3.0	—	—	—	—	—	—	Bandar Abbas※	31	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
1969.	1	26.0	-12.1	20.9	12.6	—	—	—	—	Bandar Abbas※	29	12.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	2	24.6	-16.1	23.7	13.7	—	—	—	—	Bandar Lengeh※	27	13.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	3	31.2	-2.0	31.3	20.6	—	—	—	—	Bandar Lengeh※	34	20.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	4	35.0	1.3	33.4	24.3	—	—	—	—	Iranshahr	40	24.3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	5	40.4	7.1	39.0	29.9	—	—	—	—	Ahwaz※	42	29.9	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	6	45.8	9.0	42.4	33.1	—	—	—	—	Masjid Soleiman	48	33.1	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	7	47.0	10.6	42.0	32.5	—	—	—	—	Agha Jari※	49	32.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	8	45.4	11.2	—	—	—	—	—	—	Agha Jari※	48	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	9	42.8	6.5	37.5	26.7	—	—	—	—	Abadan※	47	26.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	10	38.4	5.0	35.2	24.5	—	—	—	—	Agha Jari※	43	24.5	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	11	31.6	-4.2	28.0	18.2	—	—	—	—	Iranshahr	35	18.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	12	28.2	-6.2	25.6	15.6	—	—	—	—	Bandar Abbas※	30	15.6	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
1970	1	26.0	-9.8	22.3	13.4	—	—	—	—	Jask※	31	13.4	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
	2	26.7	-8.4	26.1	16.2	—	—	—	—	B.Abbas※	29	16.2	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	3	30.0	-3.2	29.2	19.0	—	—	—	—	Chah Bahar※	29	19.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	4	38.4	3.1	35.8	24.0	—	—	—	—	Iranshahr	36	24.0	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
	5	43.6	5.4	40.5	29.7	—	—	—	—	Abadan※	42	29.7	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
						—	—	—	—	Zabol※	42	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
						—	—	—	—	Bandar Lengeh※	49	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
						—	—	—	—	Iranshahr	49	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

尚、別に SANGAR ダム（第 4 図参照）河水を利用してニジマスのか化養殖が行なわれている。

§ 3. ペルシャ湾並びにオーマン海における現行主要漁業

ペルシャ湾並びにオーマン海各漁業地区における各種漁業の分布を第 14 表にまとめた。表記の他エビ小型トロール、母船式エビ漁業、更に 1 部地区においては真珠の採取が行なわれている。各地区における各漁業共 6～8 月にわたる酷暑の間にあつては操業の中断乃至激減を見ることが前記の通りであるほか、LAVAN 島（㉔地区）、KHARGU 島（㉕地区）、ABADAN（㉖地区）など石油の産出を見る地域においては漁業の操業に制約が加えられることが少ない。以下各漁業についての概要を記述するが、各地域にわたり漁獲を見る主要魚種については魚法、漁期、漁獲の多少、利用状況等を魚種別に巻末添附の第 69 表に取りまとめて記載した。

◎第 14 表：ペルシャ湾、オーマン海における各種漁業の分布
（各地区については第 1 図並びに第 12 表参照）

地 区	漁 法	旋刺網	流 網	曳網	落 網	底 罟	1 本釣
㊸ OMAN(アラビア半島側)	隻 60	ク統 25	ク統	ク統	単位	人 40	
㊹ QISHM(QISHM島中心)	35	15	15		80	25	
㊺ LENGHEH(LENGHEH~LAVAN島)	60	75				100	
㊻ TAHIRI(DAYER中心)	30	10			130		
㊼ KHARGU(KHARGU中心)	70	25			110		
㊽ ABADAN(湾奥部)	130	30		25			
計	385	180	15	25	320	165	

(1) 流網漁業

- (i) 漁具並びに漁法：一般的なものを例にとると、ナイロン 35～45 本、掛目 125 位、75 m 切り、15～25 反、目合 14～15 cm。一般に夜投網翌朝帰網。
- (ii) 漁期：各地区共殆ど周年。
- (iii) 漁場：好漁場としては SALAMEH 島、LARAK 島、HENGAM 島、BANDAR LENGEH、MOBARAKI、JASK の各沿岸（第 2 図参照）。
- (iv) 漁獲：1 網の漁獲 50～700 尾（平均 100～200 尾）。対象魚種はマグロ、コシナガ（全長 40～60 cm、体高 15～25 cm、体重 4～6 kg）、マス、カツオ（体

重3～5kg)を主にサワラ(体重1～4kg)、カマスザワラ、スギ、クロマナガツオ(小型)、カイワリ、センネンダイ(3月頃産卵浮上の時期には別して大漁)、シロカワ、バショウカジキその他。

尙参考として南方漁業公社所属船並びに BANDAR ABBAS 沿岸漁船による最近の操業実績の1例を第15表並びに第16表に夫々記載。

◎第15表：南方漁業公社船“RASHGOO”50トンによる
流網操業実績(1968～1969の1年間)

操業 年月日	漁獲明細			操業 年月日	漁獲明細			操業 年月日	漁獲明細		
	マグロ, コシナガ	スマ, カツオ	その他		マグロ, コシナガ	スマ, カツオ	その他		マグロ, コシナガ	スマ, カツオ	その他
1968	P/S	P/S	P/S	1969	P/S	P/S	kg	1969	P/S	P/S	P/S
9 27	45	2	19	1. 3	14	6	21	221	61	7	
28	30	2	2	5	10	45	5	23	15	54	
10.12	8		8	12	7	114		25	165	25	
14	4		21	13	1	115	15	27	28	34	
15	140		40	14	3	30		3 2	10		
11. 1	15		21	15	2	2	3	9	277	126	
16	3	17	74	18	729	120	22	10	152	214	
20	100			30	46	40	3	13	222	44	
21	200	440	kg	2. 1	406	579		14	150	93	
23	371	700	100	2	68	590		17	583	13	
25	1460	50	45	3		40		26	56	29	
29	713	250	40	4	35	7		27	35	48	
12. 4	92	816	40	6	40	59		4. 5	24	17	461
11	26	58	25	7	24	12		21	36	263	kg 15
16	273	445	130	11	363	11		5 7	139	12	P/S 368
20	25	8	40	14	90	9		8	52		65
26	792	363		16	100			20	255	5	3
30	247	106	15	19	80	290		計	P/S 8822	P/S 6310	P/S 1082 kg 519

- 〔注〕 (1) マグロ、カツオ類1尾の平均体重は3.5～4.5kg(最高6kg)
 (2) その他魚類：カマスザワラ、サワラ、カイワリ、ナガエバ、クロヒラアジ、スギ、センネンダイ、マナガツオ、シロカワ、バショウカジキ、サメ類
 (3) 漁場：KUMZAR, SALAMEH, LARAK, FARUR, BUSTANEN, QISHM, HENGAM, SUZEH, HORMUZ, BANDAR LENGEH, MOBARAKIの沖(第2図参照)

◎第16表：BANDAR ABBA漁船による流網操業実績の1例
(1969年4月、漁場はHORMUZ沖)

年月日 (船 No.)	漁獲明細						年月日 (船 No.)	漁獲明細					
	マグロ コシナ ガ	スマ カツオ	サワラ 類	カイワ リ、ナ ガエバ	センネ ンダイ	スキ その他		マグロ コシナ ガ	スマ カツオ	サワラ 類	カイワ リ、ナ ガエバ	センネ ンダイ	スキ その他
416	P/S	P/S	Kg	Kg	P/S	P/S	422	P/S	P/S	P/S	P/S	P/S	P/S
(1)	43				18		(4)		100			70	
(2)	60		6	8			(5)		120			370	
(3)	50		6	4	17		(6)		100			8	
(4)	151			16	5		(7)	61	60				
(5)	74			24			423	P/S	P/S	P/S	P/S	P/S	P/S
(6)	43						(1)	241		3			
(7)	85		8	43	91		(2)	250	40	6			3
422	P/S	P/S	P/S	P/S	P/S	P/S	(3)	145	10			315	11
(1)	1	40		3	76	3	(4)	146		20	3		8
(2)		5	2	4	83		(5)	78		44	3		87
(3)	7	60	1		40	1	(6)	150	15				

(2) 底金網籠定置漁業 (GARGUR 漁業)

(i) 漁具並びに漁法：沿岸地方名で“GARGUR”と呼ばれる径約2.5mの章魚壺型金網製籠を2日～7日の間海底に設置。使用漁船は他漁業と兼用の場合多く、1船の扱う籠数の単位は10～30籠。

(ii) 漁期並びに漁場 (第2図参照)

(a) QISHM島SUZEH沖14キロ線周辺、LARAK島周辺：9月～翌年6月。最盛期は3月～6月の間にて漁獲はキヌチ、センネンダイが主。

(b) BANDAR LENGHEH沖、FARUR島周辺その他：9月～翌年5月。最盛期は3月～5月。

(iii) 漁獲：対象魚種はセンネンダイ、キヌチ、カイワリ、ノミノクチ、ホウセキハタ、ヒレコダイ、インダイその他のタイ類、マナガツオその他の底魚。尚参考のため南方漁業公社所属船による操業実績を第17表に記載。

◎第17条：南方漁業公社々船“RASHGOO”50トンによる底籠
漁獲実績 (1968～1969 1年間)

年月日	1968	10	13	31	11	17	23	25	29	12	4	8	11	16	20	30
漁獲 kg (P/S)	(182)	(58)	(18)	137	20	94	15	40	100	212	250	184				
年月日	1969	1	3	12	15	18	21	26	35	20	44	6	61	9	計	
漁獲 kg (P/S)	12	200	140	214	173	70	(181)	(271)	(145)	(242)	(49)	1861	1,146	kg		

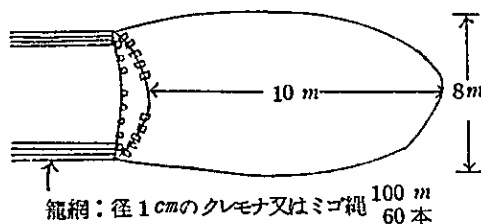
- 〔注〕 (1) 魚種の内容はセンネンダイ、カイワリ、ナガエバ、クロヒラアジ、ノミノクチ、ホウセキハタ、キヌチ、ヒレコダイ、ハマフェブキ、イサキ、その他
 (2) 漁場は主として、OMAN海 SHISHA、LARAK島、SUZEH(QISHM島)、FARUR島、HORMUZ 島近海(第2図参照)。
 (3) 設置籠数は各回8~27籠、定置日数は3~5日

(3) 地曳網漁業、旋刺網漁業。

◎第4図：地曳網略図

(i) 漁具並びに漁法：地曳網漁具につ

いては第4図参照。風を見て早朝より夕刻まで普通1日3~4回操業。7~8人乗り榕檣舟2隻にて投網後直ちに揚網。揚網は岸より手曳きをもって行なう。



(ii) 漁期並びに漁場(第2図参照)。

(a) HORMUZ 島周辺：11月~翌年1月。

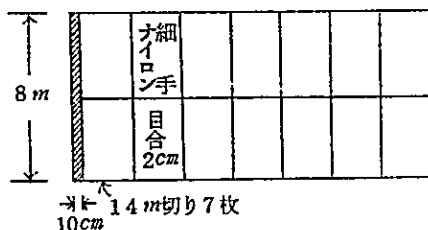
(b) QISHM島並びにHORMUZ 島周辺：2月~4月。

(iii) 漁獲：1網平均漁獲20~150

kg。対象魚種はサッパ(体長6~

15cm, 体高15~3cm)を主にキス、ナンヨウザヨリその他の小型魚。

(袋 網)



(4) エビ小型トロール漁業

◎第5図：エビ小型トロール漁具

(i) 漁具並びに漁法：

漁具については第5図参照。

(ii) 漁期並びに漁場

(第1図並びに第

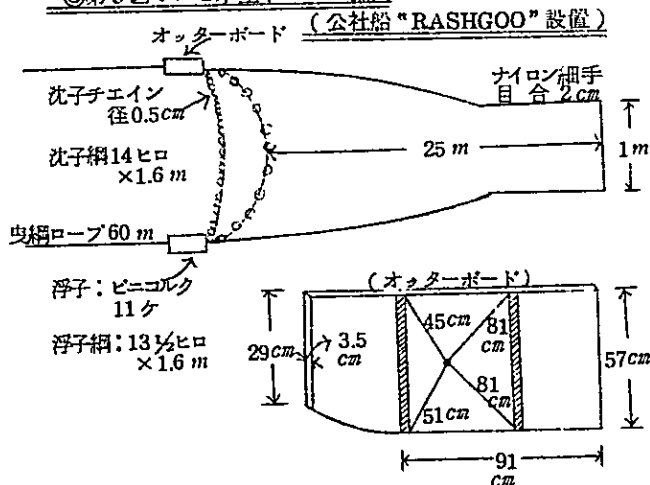
2図参照)：主と

してBANDAR

ABBAS並びに

HORMUZ 島の前

浜及び BANDAR



DAYERより BANDAR BUSHIRE に至る沿岸。第11章にも記載の通り3月上旬～7月上旬の間は禁漁期と定められており、この間に酷暑期の休漁を加えると実際の操業は9月～翌年2月となる。

- (iii) 漁獲：1日3回曳操業にて1網の漁獲平均20～200kg（最高記録1,000kg）。
尚参考のため南方漁業公社所属船による操業実践の1例を第18表に記載。

◎第18表：南方漁業公社所属船によるエビ小型トロール操業
実践の1例

操業年月日		1968. 9. 21			1968. 9. 22			1968. 9. 24					1968. 10. 4		
曳網回		No. 1	No. 2	No. 3	No. 1	No. 2	No. 3	No. 1	No. 2	No. 3	No. 4	No. 5	No. 1	No. 2	No. 3
漁獲	エビ	30	800	300	20	500	150	90	20	60	60	20	20	130	120
(kg)	その他	50	—	300	100	—	450	110	30	60	110	—	—	470	380

- 〔注〕(1) その他魚種の内容は、クロサギ、グチ、キヌチ、エソ、キス、サッパ稚魚その他
(2) 漁場は BANDAR ABBAS 港口附近、QISHM 島近海

(5) 母船式船団エビ漁業

1970年現在外国船団によるもの2船団の操業を見るもこの詳細については第7章に記載。

(6) 底魚1本釣り漁業

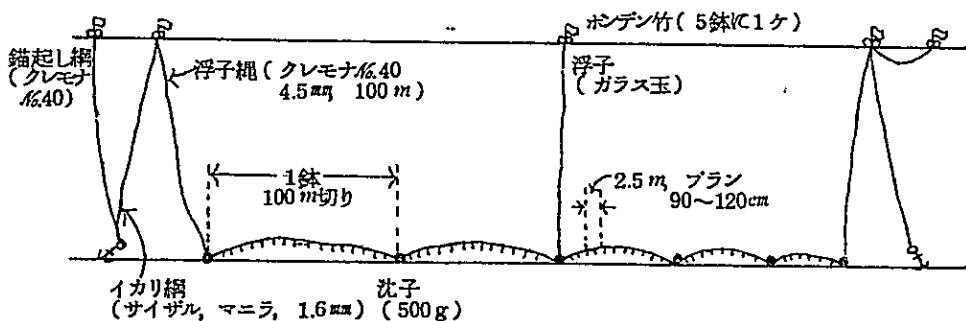
- (i) 漁具並びに漁法：モーターランチもしくは桟橋船2～4人乗り。釣り2～3本付。
釣り針、ナイロンテグスは共にノルウェー乃至ドイツ製のものを多く使用。
(ii) 漁期並びに漁場：殆ど周年。漁場は何れかと言えばオーマン側に多く、別してKUMZAR
沖が好漁場（第2図参照）
(iii) 漁獲：1船1日の漁獲平均20～100kg，最高200kg。対象魚はホウセキハタ、
ノミノクチ、センネンダイ、ハマフェフキ、ヒレコダイ、キヌチ、カイワリ、クロヒラア
ジ、その他の底魚。

◎尚現在南方漁業公社において試験操業中のものであって将来有望と考えられる漁業の概要について次記する。

(7) 底延縄漁業。

- (i) 漁具並びに漁法：漁具の構成及び仕様規格については第6図並びに第19表に夫々記載。
現在5トンランチをもって試験操業中。

◎第 6 圖：底延繩漁具構成模式圖



◎第19表：底延繩試作漁具仕様，規格

名 称	資 材	規 格	摘 要
主 縄	テトロン	No. 40 (4.5mm)	1 針 1 0 0 m
ブラン	ナイロン	No. 50 (1.17mm)	長 90~120 cm, 2.5m 間隔 1 針 4 0 本
釣 針	軟 鋼	No. 38 又は No. 32	No. 32 を多く使用
浮子縄	クレモナ	No. 40 (4.5mm)	長さ 1 0 0 m, 主縄 5 針に 1 ヶ使用
沈 子	鉛	500 g	各針毎に使用

(ii) 漁期並びに漁場：漁期、漁場共に現在試験の結果より検討中。

(iii) 漁獲：試験操業結果の1例を第20表に記載。

◎第20表：南方漁業公社5トンランチによる底延縄試験操業結果

(1969 ~ 1970)

試 験 操 業			漁 獲 内 訳							
年 月 日	漁 具 数	餌 料	ノミ クチ	ハウセ キンタ	カワ フエバ	ヒロ ダイ	キヌ チ	セン ンダイ	ナマ ズ	サメ 類
19691015	17 鉢, 720 鈎	冷凍エビ, 塩マダロ	p/s ₅	p/s	p/s ₁	p/s	p/s	p/s	p/s	(小)2
1028	20 鉢, 840 鈎	生エビ, 塩アジ	1		10	3		1	150	
1121	縄9 枚半	生エビ, サッパ			2		3	1	11	
1217	20 枚, 820 鈎	生エビ, サッパ	5	60kg	2		3		18	
1970. 115	20 枚, 800 鈎	サッパ		60kg				2		

〔注〕 漁場はKUMZAR湾口, QISHM島SUZEH沖(第2図参照)

(Ⅳ) 本漁業は 1968～1970 年にわたり技術指導のため日本より派遣された漁撈専門家の提案指導の下に試験操業が行なわれたもので、これに要する前記の漁具 1 式は日本政府より技術援助助材の一部として供与を見たものである。日本専門家帰国のあとは南方漁業

公社陣により引き続き試験を継続中である。

§ 4. 漁業に影響を及ぼすペルシャ湾並びにオーマン海 of 自然環境

(1) 地勢 (第 1 図参照)

ペルシャ湾は HORMUZ 海峡でオーマン海と結ばれた内海の形をとりその面積は約 252,000 平方 km (97,000 平方哩), オーマン海東端西パキスタンとの境界より湾奥 SHAT-AL-ARAB (チグリス-エウフラテス) 河口に至る海岸線は 1,800 km (1,110 哩) に達する。湾の中は最長 260 km (160 哩), 海峡部で 47 km (29 哩) となっている。水深は概して浅く 20~50 ヒロ, 底質は全般に泥質であるがその処々にサンゴ, 滑らかな岩盤が散在する。

(2) 潮流 (第 2 図参照)

湾内の潮流変化に関する正確な数字的資料は現在尙見られないが少く共 2 つの大きい潮流が確認出来る。即ち年間を通し HORMUZ 海峡より湾内に注ぎ込むものと, 6 月~12 月の間において最も強く現われる HORMUZ 海峡と RAS-AL-MUTAF (MUTAF 岬) との間を湾の北岸に沿って流れるものとである。潮速は普通 1 ノットを越えないが部分的には 1½ ノットに達する。

(3) 風 向

湾内に吹く風には次の如く呼称されるものがある。即ち:

- (i) SHAMAL: 西北西乃至北北西の風で 5 月~6 月並びに 10 月~12 月の間には 10 回中 4 回, 8 月中には 10 回中 3 回がこの風である。
- (ii) SHARJI (イラン呼称) 又は KAUS (アラビア呼称): 南東風でその頻度は SHAMAL の ½。
- (iii) SUHAILI: ペルシャ湾を横断して南西に吹くもので湾奥部には殆ど見られない。
- (iv) NASHI: 北東風で冬期散発的にペルシャ湾東側に吹くもので数日にわたり吹き続けることも少なくない。
- (v) 北風: 頻度は SHAMAL の ½ 以下。
- (vi) 西風: 頻度は SHAMAL の ⅓。

(4) 気候 (第 3 図並びに第 13 表参照)

前節に記載の如く高温多湿なことは世界的ともいえよう。海岸地域の降雨量は年間 150 mm と低い。

B 内 水 面 漁 業

前節にも記載の通り、イランにおける内水面漁業は北部地区 SANGAR DAM その他 1 部河川湖沼におけるニジマスのか化養殖の他、現在においては漁業生産上大きい比重を占めてはいない。第 11 章に記述する如く、この種漁業は政府による将来の開拓をまつ現況にあるといえよう。

C 浅 海 養 殖

ペルシャ湾において、地元漁民による真珠母貝の採取と共にオーストラリア企業との合併による小規模な真珠母貝養殖事業が行なわれているが、これについてはその概要を第 7 章に記載する。

第3章 水産物の利用状況

§ 1. 水産物の消費形態と利用配分

(1) イラン国民の食生活中における水産物の占める地位

イラン人日常の食生活においては主食としては米麦の2本立て、即ち米飯 (CHELO 若しくは KATEH) と、この国特異の様式に焼き上げたパン (NUN) とをとる。副食としては野菜に加うるに畜肉、鶏肉乃至その加工製品の占める割合が大きいが地域によっては従前より魚類を始めとする水産物が食卓上に仲間入りする比率も低くなく、近年種々の理由によりこの傾向が更に伸びつつある。この国々土の占める位置乃至その地勢のみを見る場合、国民食生活は畜肉依存1辺倒と受け取られ易いにも不拘従来相当量の水産物が、たとえ地域的にもあれ日常に取り入れられて来ているのには、私だけの独断であるかも知れないが、次のことがその理由として考えられる。即ち：

(i) 第1に、歴史によっても明らかな通りこの国々民の大方は少く共建国以来1300年の余にわたり定着の生活を続けて来ていることである。勿論その間近世に至るまで他民族による侵入と略奪とを少からず蒙ってはいるものの、住民は戦火の収まると共にその都度元の焦土に戻ってあらためて定着生活の出直しを始めており、彼等が羊を追って西し東する遊牧の生活に馴染みを失ってから年月は実に長い。定着生活の歴史の長いことは日常生活中への農業の導入を意味すると共に、沿岸地域即ち北のカスピ海、南のペルシャ湾における漁業の発達をその必然の結果と考えても不自然ではない。別して極く近世に至るまでその地理的条件により北部中枢の地域から全く隔離を余儀なくされていたペルシャ湾並びにオーマン海沿岸の住民にとって漁獲物は日常の食生活にあって文字通り海の幸であった筈である。

(ii) 次に米飯を主食とすることが魚食の慣習を大に助長していると考えられる。むづかしい理屈は一切抜きにして、畜肉はパン食に魚肉は米飯により一層適するようと思われる。もう1歩突込んで言えば、魚肉を筆頭とする水産物に対する調理の範囲は主食を米飯とすることにより、即ち米飯と抱き合わせることに、パン食の場合とは比較にならぬ程に広がって来る。揚げ、炒める、蒸す — パン食の場合精々この範囲を出ない魚肉の調理法がイランにおいては、米飯と混ぜ合わせて食べるスチュウ (KHORESH)、炭火による串焼き (KABAB)、更には炊き込み飯 (PORO, HAVARI) といった工合に遙かに多岐にわたっている。

日本人の如き世界でも特異とさえみられる魚食民族とは比ぶべくもないが、上記の通りイラン人は地域による差こそあれ全般的に見て欧州系民族としては水産物を良く食卓に載せる慣習をもっているといえよう。回教国に共通する宗教上のおきてから畜肉における豚と共に水産物にあっては鱗のないものもしくはあっても判然と可視的でないもの、即ちサメ、エイ、カジキ、イカ、タコの類は強く忌避されるがそれ以外は貝類を含めて一切是を食卓に載せることを拒ばまい。

◎第21表：肉類小売価格，1970年（TEHRANにおける魚類は冷凍品）
Rls（リアル）＝¥4.75）

区分	種別	小売価格		区分	種別	小売価格	
		BANDAR ABBAS	TEHRAN			BANDAR ABBAS	TEHRAN
畜肉	マトン（骨付き）	Rls 120	Rls —	大衆魚	サワラ	Rls 25	Rls 55
	ラム（骨付き）	140	—		クロマナガツオ	25	45
	鶏（立ち）	120	—		カレイ、ヒラメ	25	40
上級魚	ボラ	40	60	エビ	クロヒラアジ	25	33
	ムツ	35	60		オオニベ、オオヒメ	25	30
	マナガツオ	30	70		ハタ、キヌチ、スズキ、カイワリ、センネンダイ	20	30
	キス、カマスザワラ	30	60		BANDAR ABBAS (H) TEHRAN (無頭)	30	100

1969～1970年における代表的魚種の小売価格を畜肉のそれと比較の上第21表としてあげる。これによっても明らかな通り魚肉の小売価格が畜肉のそれに比し相当低いこともまたこの国における魚食の慣習を助長している一因であるといえるかも知れない。表中に記載の魚種はペルシャ湾並びにオーマン海に漁獲される海産魚であって、TEHRANにおいてはこれにカスピ海産のチョウザメ、ホワイトフィッシュ、ニシン、サケその他が加わることは勿論である。因に畜肉はその生産に恵まれている北部イランにおける小売価格がペルシャ湾沿岸の南部地区に比し多少低いものと推定される。

(2) 地域による食用としての水産物の消費乃至利用

イラン国民の食生活において水産物の占める比重がさして低いものでないことは既述の通りであるが個々の水産物に対する嗜好性、ひいては食用に供するに当たってのそれらの調理法などの細部にわたってこれを観察して行くと、同じ国内にあってもその地域により少からぬ差異のあることが判る。地図を聞けば1目して判然たる如くイランの国土は東西と北境の東半分は地続きに隣国と接し、北境の中部から西部へかけてがカスピ海に、南部がペルシャ湾とオーマン海とに夫々面している。このカスピ海とペルシャ湾並びにオーマン海がこの国における水産物の供給源となっており、この両者はその水質に大きい差をもつ上にその位置する緯度の高低よりしても、夫々に

生産される水産物に必ずしも類似性が見られぬことが明らかである。輸送機関の発達を見ていなかった過去何世紀を夫々の地域に生産される水産物のみに馴染んで来た南北両地域においては、従って夫々の地域の住民の水産物に対する嗜好性乃至その利用様式に差異が生じていることを見逃すことが出来ない。即ち：

(i) 北部イランの住民の場合

アケイメネス王朝の昔はさて置き近世から現代に至るまでのイランの発達には北部を中心として見られ、TEHRAN, ESFAHAN, TABRIZ, MASHAD その他の大都市即ち大消費地の大方は北部に集中して来たもののそれらに対する水産物の供給源は従来カスピ海産に限られた種類と数量の範囲にあった。即ちこの地方の住民は上記の水産物を、南部の住民に比し何れかという頻度の少い割合をもって消費して来ているため魚類を始めとする水産物に対する嗜好の範囲にも制約が認められ、別してその鮮度についての理解度にも可成りの限定が見受けられる。彼等の魚類に対する嗜好は何れかという欧米人のそれに近いもののようで、例えば脂肪の少い白身の魚種を好み、同じ魚種であれば腹肉よりも脂肪と小骨の少い背肉を選ぶといった工合で、中落ちや腹肉から骨をしゃぶり出すような芸当は所詮彼等には望むべくもない。更に彼等にあっては1度最高鮮度の原料に接する機会をもつに至るや爾後無臭のものの他は全てこれを食用不適と判断する傾向に走る場合が少くない。結果彼等は又、魚類を始めとする水産物の鮮度には幾つかの段階が設けられ、ある段階までは食用に適し且つその段階に応じて価格差を設けて取り引きされるという一般慣習を受け入れるゆとりをもつことが出来ない。言葉を変えて言えば彼等にあっては水産物の鮮度に関する限りその判定尺度は100か0かであってその中間の存在は認められない。

(ii) 南部イランの住民の場合

ペルシャ湾乃至オーマン海沿岸の南部地域は近世から最近に至るまで、国土の中央部に広がる広大な不毛の砂漠に北部中枢との交渉を妨げられ、海路よりする仏、英、葡諸国との限られた接触の経験をもつ以外は全く本来独自の生活を続けて来た。この影響はその住民の食生活上にも少なからず見られ、加えて北部に比し畜肉の生産の低いことにもより、魚類を始めとする水産物消費の慣習が北部住民の場合に比べ遙かに広くそして深く浸透して来ている。1例を挙げて見ても彼等は魚類の腹肉、頸肉を好み更にあらゆる魚卵を好んで食卓に載せ、それらを料理に仕立てあげるに当っても北部住民には馴染のうすいと思われる炊き込み飯のようなものまでをお目見得させる。日常にあって水産物に接する機会の多いことはその鮮度に対しては巾広い理解を示す結果となり、水産物をその鮮度に応じて段階的に区別し、その区別により価格差を設けて販売乃至購入をする術を心得ている。前掲第21表にあって大衆魚に属するクロヒリアジ、オオニベ、オオヒメ、

ハタ類 スギなどのBANDAR ABBAS小売価格とその冷凍製品のTEHRANにおける小売価格との差が、上級魚とされるボラ、ムツ、マナガツオ、キス、カマスザワラなどの小売価格に比し少いことは他の理由によろうが、前者が鮮食して所謂魚らしさの強い味と肉質とをもつ魚種であるのに反し後者が何れかという所謂腥味の少ない魚種であり、これが南北両地域住民の魚類に対する嗜好の差に反映を及ぼした結果、南部地域における大衆魚価格を比較的高く維持していると考えられぬこともない。因に後記する如く、缶詰原料としてやゝ鮮度に難点のあるマグロ、カツオ類が塩蔵のうえ沿岸住民の消費に向けられているが、この事実もむしろ彼等が水産物の鮮度に対して巾広い理解をもつ1つの左証とこそなれ、これをもって彼等が水産物の鮮度について無関心であると見なすようなことがあればそれは思い違いも甚しいものといえよう。

§ 2. 水産物の流通過程と取引機構

(1) 水産物の流通過程

先にも記載の通りこの国にあっては漁獲から加工を経て販売に至る一貫した行程は一応両国策会社即ちカスピ海を対象とする北方漁業公社(SHILAT SHOMAL, Northern Fisheries Co.,)とペルシャ湾並びにオーマン海に拠点をもち南方漁業公社(SHILAT JANOUH, Persian Gulf Fisheries Co.,)の手にその運営を委ねられていることもあってか、生産者→魚市場→問屋→小売業者→消費者という組織立った水産物の流通過程は現在尙見られない。即ち生産者と消費者との間に介在する問屋の如き存在は生産地には勿論消費地にも見られず、魚獲物は一般に次の経路により消費者の下に運ばれる。

(i) 地元消費の場合

夫々の水揚地において地元消費に向けられる漁獲物は生産者たる漁民の手より直接消費者に売り渡され、従って水揚地である沿岸部落乃至町村には店舗を構える小売業者は存在しないのが一般で、かかる地域においては道路もしくは砂浜にひとかたまりとなった漁民がその日の収獲を並べて買手をまつ姿が見られ、又各部落を結ぶ道を籠を肩にした漁民がその日の獲物をひさいで行く姿に行き当たることが少くない。各水揚地共漁獲の絶対量が少い故も手伝ってか魚市場の存在もなく、従って生産、消費両者間の取引は相対によって行なわれる。

(ii) 大消費地の場合

TEHRANを始めとする大消費地への水産物の供給は前出の2国策漁業公社の手により行なわれる。両公社は夫々カスピ海沿岸(BANDAR PAHLAVY並びにBABOL SAR)、ペルシャ湾沿

岸（BANDAR KHORAMSHAH並びにBANDAR ABBAS）に水産物加工保蔵の施設をもち生産者たる地元漁民より、自社所属の運搬船（第10表参照）を各水揚地に派遣のうえ、漁獲物の集荷を行ない、これを上記工場施設において加工（主として凍結）のうえ自社所属の冷凍ダンプをもって消費地に輸送する（輸送の詳細については本章§3に記載）。この場合夫々の基地より至近の距離にある消費地以外へは鮮魚の姿による出荷は見られない。大消費地には夫々の公社の運営による冷蔵庫の設立を見ており、これを經由して直営の販売店舗その他の小売店舗に送られる。即ち上記の各基地が水産物の集散地となり、両国策公社が生産、消費両地における集散問屋の役を果たしているといえる。以上の現況下において消費地における卸売市場の必要性も認められておらず、結果その設立も尙見られていない。

（2）水産物の取引機構

前項に記載の通り、地元消費の場合における水産物の取引は全て生産消費両者間の相対をもって行なわれるので取引上特記すべき程の機構は存在しない。国策公社がやゝ大量の取扱いを行なう場合にあっては取引上何らかの機構らしきものが見られるのは生産者たる漁民から公社が加工原料として漁獲物を購入する場合においてのみであり、それ以後の過程における水産物即ち加工製品は公社の独占的なルートによるため取引の必要は一切生じて来ない。この現状よりして水産物の取引機構というものは地元漁民と公社との間における限られた範囲に存在するものに過ぎない。これにつきペルシャ湾並びにオマーン海産漁獲物の場合を例にとって次に記述する。

（i）南方漁業公社による漁獲物の入手経路

（a）自社所属船によるもの：取引の対象とはならない。

（b）沿岸漁船より購入するもの：公社に入荷する原料の90%に近い量は沿岸漁船による漁獲物に依存する。参考のため公社BANDAR ABBAS 事業所における最近1ヶ年間の原料入荷量を第22表並びに第23表をもって示す。

（ii）南方漁業公社における漁獲物の購入様式

沿岸小漁業基地においては勿論、BANDAR ABBAS、BANDAR BUSHIRE、KHORAMSHAHの如き集散地であっても魚市場の組織は現在みられず、従って漁獲物の売買は地元漁民と公社事業所との間における相対取引の形をもって行なわれる。現在尙漁業組合乃至生産者協同組合の結成は見られておらず、このため漁獲物の売買取引に当っては先づ売買価格並びに条件についての取り極めが公社側と数名の漁民代表との間における話し合いにより行なわれ、爾後この取り極めに基く漁獲物の受渡し並びにそれに対する代金の受取りは公社と個々の漁民の間において直接済まされること第7図に示す通りとなる。

◎第22表：南方漁業公社 BANDAR ABBAS 事業所への原料入荷。
1968～69 1ケ年。 マグロ類のみ単位P/S(尾) 他は kg

魚種 年月区分	マグロ、スマ、カツオ			サ ッ パ			エ ビ		
	自 船	購 入	計	自 船	購 入	計	自 船	購 入	計
1968 9	P/S 267	P/S 1,212	P/S 1,479	kg	kg	kg	kg 3083	kg	kg 3083
10	1054	34454	35508				5482	1729	7211
11	4117	36228	40345						
12	3354	7580	10934		2064	2064			
1969 1	1284	16539	17823		8560	8560	12	5245	5257
2	2851	20163	23014		3376	3376		8824	8824
3	2056	15574	17630		26892	26892		7179	7179
4	1524	17690	19214		7540	7540		11102	11102
計	16507	149440	165947		48532	48532	8577	34079	42656

魚種 年月区分	A 級 魚			B 級 魚		
	自 船	購 入	計	自 船	購 入	計
1968 9	kg	kg	kg	kg 50	kg	kg 50
10	189	2414	2603	1242	16114	17356
11	424	3725	4149	1041	37643	38684
12	290	107	397	3086	20316	23402
1969 1	80	878	958	749	26473	27222
2	93	930	1023	823	21712	22535
3	76	683	759	1366	22867	24233
4	131	1357	1488	9430	35771	45201
計	1283	10094	11377	17787	180896	198683

◎第23表：原料総入荷高（第22表より）

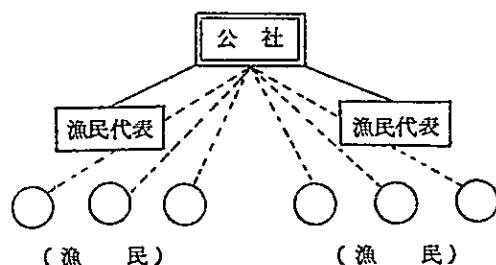
魚 種	区 分	自 船	購 入	計
マグロ、スマ、カツオ		kg 66,028	kg 597,760	kg 663,788
サッパ		—	48,532	48,532
エビ		8,577	34,079	42,656
A級魚		1,283	10,094	11,377
B級魚		17,787	180,896	198,683
計		93,675	871,361	965,036

- 〔注〕 (1) 例年6～8月の夏期は酷暑のため出漁中断、工場休業
 (2) 自船：一公社船による漁獲，購入：一地元漁船より購入
 (3) A級魚，B級魚の魚種明細は第24表に記載
 (4) 第22表におけるマグロ，スマ，カツオの単位はP/S(尾)をもって表示せるも，これを1尾平均4kgとして重量に換算の上第23表を作製。

尙公社は主要魚業基地（水揚地）に集荷人を依頼配置し、漁況その他についての連絡並びに漁獲物集荷に関する漁民との交渉に当たっている。公社と漁民代表との間における価格その他条件の取り極めは次記の如く各魚種に応じて夫々行なわれる。尙魚種別の価格については本章 § 4 に記載する。

◎第7図：漁獲物取引系統模式図（ペルシャ湾）

——：価格、条件の取極 - - - - -：現物、代金の決済



- (a) マグロ、コシナガ、スマ、カツオ：主として缶詰原料となる。イラン暦の年初即ち春分の日の前後に、公社側と漁民代表との間において向後1年間における売買価格のみについて取り極めが行なわれる。この国唯一の水産缶詰工場たる公社 BANDAR ABBAS 工場の原料魚消費力（1970年現在1日の原料消費は1尾4kg平均のマグロ、カツオ類1,000～1,500尾）を上廻る継続的漁獲を期待することはほとんど不可能の現況にあるので、数量についての取り極めは行なわずとも水揚の大方が公社に引き取られる結果となる。しかも競争企業なく、且つマグロ、カツオ類鮮魚に対しては一般の需要が必ずしも高くないので、工場の消費を充すに足る漁獲のない現状にあっても価格についての取り極めの結果はほとんど例年買手即ち公社側の意向に引きづられる傾向にある。
- (b) サッパ：主として缶詰原料となる。マグロ、カツオ類に比し鮮魚に対する一般の需要もやや高く、且つ地元漁民において塩魚の製造に一部向けられている関係もあり、漁民側にとっては年間契約によって公社に売り渡しを予約することを必ずしも必要とせず、このため年間契約は行なわれることなく、都度値極めの上個々の漁民より公社に購入される。
- (c) エビ：ペルシャ湾に漁獲されるエビには“White”, “Tiger”, “Orange”の3種があるが“Tiger”, “Orange” 両種の混獲率は極めて低く、従ってエビは種類分けをされることもなく又大小の型に選別されることもなく、価格も普通1本立てとなっている。尙外国企業による船団漁獲のエビの取引については第7章に記載。
- (d) その他魚類：主として冷凍原料、やや不鮮のものは塩蔵原料となる。公社側において、第25表に示す魚種別に応じた国民の嗜好を勘案のうえ、魚種による級別の標準を第24表に記載の通り設け、これに一応の準拠を置いて購入の都度漁民との間に価格その他取

引条件の取り極めが行なわれる。ただし実際に当っては必ずしも表記の価格に従うものとは限らず、これは何処までも一応の指標として参考とされるに留まっている（詳細については本章 § 4 に記載）。

◎第24表：南方漁業公社による魚類の等級別並びに購入標準指示価格

(1968～1970年度)

級	等級	主 要 魚 種	公社指示標準購入価格
A	1	カマスザワラ、マナガツオ、キス、ボラ、ムツ	\$400/ton (Rls, 30/kg)
	2	サワラ、クロマナガツオ、オオニベ、ニベ、ホウセキハタ、ノミノクチ アカハタ、カレイ、ヒラメ、シタビラメ、センネンダイ(大)、クロヒラアジ	\$260/ton (Rls, 195/kg)
B	3	ヒレコダイ、イシダイ、カイワリ、ナガエ、スズメダイ、ヒレナガカンサ スギ、オニカマス、キヌチ(大)	\$200/ton (Rls, 15/kg)
	4	小型アジ類、キヌチ(小)、オニアジ、ナンヨウザヨリ、イケガツオ	\$120/ton (Rls, 9/kg)
	5	フエフキダイ、ハマフエフキ、フトサイトウ	\$80/ton (Rls, 6/kg)

◎第25表：ペルシャ湾産魚種の中イラン国民に愛好されるものと忌避されるもの(参考)

区 分	小 区 分	主 要 魚 種
イラン国民 に愛好され るもの	全国的に愛好されるもの	マナガツオ、クロマナガツオ、カマスザワラ、サワラ、ヨコジマ サワラ、ボラ、ムツ、ホウセキハタ、ノミノクチ、エビ
	特にペルシャ湾沿岸住 民に愛好されるもの	上記魚種に加え、クロヒラアジ、グルクマー、メガネハギ、オオ ニベ、オオヒメ、スギ、ヒラメ、カレイ、シタビラメ
イラン国民 に忌避され るもの	回教国に共通する宗教 上の理由により	トンガリ、シュモクザメ、ホホジロ、ヨゴレ、ノコギリザメ、 イトマキエイ、トビエイ、シロカワ、バンショウカジキ、イカ、タコ
	宗教上の理由を離れて 食慣習のないもの	ミノカサゴ、フグ、ヒメジ、コトヒキ、コトヒキダマシ、モンガ ラハギ、クロサギ、ハタタテダイ、ツノダシ、サザナミヤッコ

上記何れの場合にあっても価格は公社事業所々在地たるKHORAMSHAH乃至BANDAR ABBASにおける棧橋もしくは事業所庭先渡を立前とされており、公社船が各水揚基地に出向の上引き取りを行なう場合にあってはそれに要する経費に応じた値引きが行なわれる。（詳細については本章 § 4 に記載）

§ 3. 水産物の輸送状況（巻頭第4図参照）

カスピ海産の水産物に関しては、その集散地たるBANDAR PAHLAVY、BOBALSARなど

が魚類の年間消費1,500～2,000トンと称せられるTEHRANを始めとして北部イランに集中する大消費地群に比較的近く、かつカスピ海沿岸がこの国きっての観光地域となっている関係上道路の整備状態も国内上位にあるため、その間に標高5,000mを越す主峰DAMAVANDを擁するELBURZ山系が東西に走る厚い壁を形造っているにもかかわらず輸送件は必ずしも不良とは言えず、更に夏期を除いては気温の上昇も見られず(第13表並びに第3図参照)、結果これら水産物を生鮮の姿で上記大消費地域に輸送を行なうことも不可能ではない。

これに反し、ペルシャ湾乃至オーマン海沿岸地域は北部大消費地域よりは距離的にも1,500～2,000kmと遠く(第4図附表参照)、かつこの国々土の中央部東側に広がる大塩砂漠(DAST KAVIR Great Salt Desert)に交通の発達を妨げられ鉄道として国の南北を結ぶのはKHORAMSHAH, BANDAR SHAHPOOR→TEHRAN→BANDAR SHAHの1路線が国土の西側に敷設されているのみであり、一方道路も石油生産の中心をなす湾奥部よりのものを除いては、この沿岸よりTEHRANに至る間連続しての補装は現在尚完成されていない。この現況の下にあってはペルシャ湾乃至オーマン海産の水産物を生鮮状態のまま北部大消費地域に輸送することはまづ不可能であり、これが又最近に至るまでこの地水産物を北部地域の住民に馴染ませ得なかった大きな原因となっている。現在においてもこの地水産物は缶詰の如き特殊な加工製品を除き全て冷凍製品の形をもって冷凍ヴァンにより北部消費地に輸送されている。ペルシャ湾並びにオーマン海における水産物の輸送は次記する如き現況にある。即ち：

(1) 水揚げ地より集散地までの鮮魚の輸送(第1図、第2図参照)

第1図並びに第2図に示すペルシャ湾乃至オーマン海の沿岸及び基処に点在する島嶼が夫々漁業基地となっており、漁獲物の主要集散地としてKHORAMSHAH, BANDAR BUSHIRE, BANDAR ABBASの3港があげられる。各漁業基地集散地間における漁獲物の運搬は地元漁船もしくは南方漁業公社所属の運搬船又は運搬兼漁船により行なわれるが、各集散地よりの集荷範

◎第26表：各漁業基地、集散地間運搬船標準所要時間

(各地区別については第1図、第2図参照)

地 区 \ 集 散 地	BANDAR ABBAS	BANDAR BUSHIRE	KHORAMSHAH
④ OMAN 地 区	3～12時間		
⑤ QISHM 地 区	3～12時間		
⑥ LENGEH 地 区	12時間以上	12時間以上	
⑦ TAHERI 地 区		7～12時間	
⑧ KHARGU 地 区		3～12時間	12時間以上
⑨ ABADAN 地 区			3～12時間以上

阻内にある漁業地区並びに夫々の間に要する運搬標準時間を第26表に記載する。漁獲物集荷輸送の現況につき BANDAR ABBAS の場合を例にとってみると：

(i) 各漁業基地より BANDAR ABBAS 桟橋(水揚地)まで

BANDAR ABBAS と各漁業基地とを結ぶ道路の整備を見ていない現在(第4図参照)漁獲物の集荷輸送は一切海路によることとなるが、この場合地元漁船は概して小型であるため漁獲物がこれ等漁船によりそのまま集散地に運搬されることは少く、第2章第10表に記載の南方漁業公社所属船舶が各基地よりの集荷輸送に当るのが通常となっている。即ち漁獲状況が入手乃至予測されるとこれ等船舶が適宜の基地に派遣され、其処に帰港する各地元漁船より漁獲物を転載あるいは洋上において接舷の上漁獲物を転載し BANDAR ABBAS に運搬する。公社船舶の魚艀容積30~60立方mを満たすには、漁況にも左右されようが、第2章第16表に示す漁獲量の地元漁船に依存する以上相当の時間を要し、かつ数隻の漁船より集荷を行なう場合が少くないのでこれに1日の余を費すこともある(第27表並びに第28表参照)。

◎第27表：南方漁業公社による流網漁獲買付の1例(1969)

(マグロ、カツオ類共1尾平均体重35~4.5kg)

魚 種 \ 月 日	219	23	25	39	10	14	17	421
マグロ、コシナガ、尾	6	14	58	8	165	167	36	283
スマ、カツオ、尾	90	304	130	30	104	48	5	870

◎第28表：南方漁業公社による底籠漁獲買付の1例(1969. 9. 4. 15)

買付 漁 船	№1	№2	№3	№4	№5	№6	№7	№8	計
買付量 kg	126	576	484	56	400	34	240	136	2,052

又集荷船が目的の基地に到着の時点において既に漁獲物が陸揚を見ている場合も少なくなく、この場合漁獲物は野積みそのままに放置されることが殆どであり、更に公社所属船中冷蔵設備を有するのはエビトロール専用船を除き2隻に限られる関係もあり(第2章第10表)、冬期の1時期の他周年殆ど炎天下に行なわれる運搬中に集荷船の甲板上にバラ積みをされた漁獲物の鮮度低下、ひいてはその変質を招くことも少くない。尙この鮮度低下乃至変質を来す因としては集散地における製氷能力の不足、漁業基地における氷入手の不可能に加え、地元漁船は勿論公社集荷船であっても甲板上の漁獲物に被覆するためのシート乃至キャンパスの使用の見られぬこともあげられよう。因に集荷運搬に要する時間は往復の航行を加え1回1日~3日となっているのが普通である。

(II) BANDAR ABBAS 桟橋(水揚地)より公社工場まで

桟橋より工場までの15~20分間は従来シートなしの普通トラックにより運搬をされていたが、最近に至り冷凍ダンプの併用を見るようになった。但しエビ、キス、イワシ原料の運搬に当っては木函乃至樽の使用が見られるもののその他のものについては小型の魚類の場合にあってもバラ積みとされるため漁体に損傷を来すこともあり、その取扱いは必ずしも万全のものとはいえない現状にある。

(2) 集散地より大消費地までの製品の輸送(第4図参照)

イランにおける鉄道の総延長は1970年現在3,700Km、この中国の南北両地域を結ぶものは1938年に完成を見たTrans-Iranian Railwayの1,440Kmで、その他の路線は全て北部イランをカスピ海に沿って東西に継ぐものとなっている。国の南北を結ぶ唯一の鉄道であるTrans-Iranian RailwayといえどもKHORAMSHAH, BANDAR SHAHPOOR→TEHRAN→BANDAR SHAHの経路を見ても判る通り国土の西側に偏して居り、延長1,800Km(1,110哩)に及ぶペルシャ湾並びにオマーン海の漁獲物輸送にはさして重要な役割を果たしているとは考えられない。この地域水産物の輸送は勢い自動車に頼ることとなるが、現在トラック、バスを含めたこの国の自動車台数は第29表に示す通り増加の傾向にはあるものの、ペルシャ湾並びにオマーン海漁業地域への普及率は石油生産の中心地たる湾奥KHUZISTAN地区を除き、北部、中部の観光地区、工業地区の場合に比し必ずしも高いとはいえない(第

◎第29表：イランにおける自動車数 (企画庁)

区分 年次	乗用車	バス、トラック	モーター サイクル	計
1963	106,095	39,357	12,213	157,665
1964	122,447	46,958	10,408	179,813
1965	144,168	58,533	14,548	217,249

◎第30表：州別による自動車1台に対する人口比 (イラン年鑑)

(当時はペルシャ湾沿岸州はFARS, KERMAN両州より分立せず)

区	州名 (OSTAN)	州都 (CENTRE)	比(人/1車)	摘 要
北	TEHRAN	TEHRAN	49	首都圏、人口集中
	KERMANSHAH	KERMANSHAH	210	大石油精製所あり
	ESFAHAN	ESFAHAN	317	国内第2の都市、観光地
	MAZANDERAN	SARI	500	カスピ海沿岸の観光地
	E-AZARBAIJAN	TABRIZ	615	
	KHORASAN	MASHAD	632	SHIEH回教開祖聖地
	W-AZARBAIJAN	REZAIYEH	632	
部	KURDISTAN	SANANDAJ	853	
	GILAN	RASHT	1,714	カスピ海沿岸観光地
南部	KHUZISTAN	AHWAZ	137	国内第1の石油生産地
	FARS	SHIRAZ	251	ペルセポリス所在の観光地
	KERMAN	KERMAN	416	工業地区、1部南部沿岸
	SISTAN & BALUCHISTAN	ZAHEDAN	1,189	ペルシャ湾、オマーン湾沿岸

30表)。更に第4図並びに第31表に明らかな通り、コンクリート乃至アスファルト舗装道路の延長率は全国的に23.2%と低く、それも石油生産精製に關係の深い西部から北部にかけてその率が高く、南部漁業地域より北部大消費地区への間はその半ば以上の距離が礫(砂利)敷道路によって占められている

◎第31表：イラン国道路延長 (1968)

道 路 種 別	延 長	割合
コンクリート、アスファルト	km 8,100	% 232
礫(砂利)敷	22,300	637
無 舗 装	4,600	131
計	35,000	100

現状にある。もっとも近年南部の開発に異常な意欲を示している政府がその開発計画の一環として道路の改善拡充に積極的に取り組んでいるので、南北両地域を至便に結ぶ輸送の問題も近い将来において解決を見るものと思われる。尙自動車輸送による場合、普通トラック便にあっては北部より南部への貨物が南部より北部へのそれを量的に上廻る現況にあるので、水産物輸送のためのトラックの手配に支障を来すことはまづない。

(i) 冷凍製品の輸送

従来は TEHRAN 所在の輸送業者の冷凍ヴァンによっていたが、1968年度より南方漁業公社により専属の冷凍ヴァン8台(5トン級、3トン級各4台)が購入され、これが KHAMMABAD - SHAH, BANDAR ABBAS の両基地に常時2~3台配置され製品のまとまり次第略々定期的に TEHRAN 向けの輸送に従事している。製品の包装についてはエビ、キスその他ケーキ状製品並びに剥皮フィレーの如き1kgポリ袋詰製品に対してはカートン箱が、丸製品の場合にはガニーバッグが夫々使用されている。

主要集散地より各大消費地までの距離は第4図附表に記載の通りであり、BANDAR ABBAS よりの冷凍ヴァンによる輸送時間を例にとると現在の道路状況のもとで TEHRAN まで約30時間、KHAMMABAD まで約7時間となっている。

(ii) 缶詰製品、乾製品の輸送

輸送業者の7~8トン級トラックによっている。TEHRAN までの如く遠距離の輸送に際しては冷凍製品の場合と異り途中の宿泊をとることもあるので所要時間も不定となる。

(iii) 塩蔵製品の輸送

塩蔵魚の消費が何れかという南部地域に限られ、従ってその生産量もさして多くないため、本製品の輸送は精々 KHAMMABAD (BANDAR ABBAS よりの距離561km)を最遠範囲とする近郊に限られ、この場合普通トラックが使用される。

§4 水産物の価格

(1) 鮮魚の価格(本章§2, 第24表, §第34表参照)

(i) 浜値：漁業基地(水揚地)には勿論, KHORAMSHAH, BANDAR ABBAS の如き集散地にあっても現在尙魚市場の設立はなく, 且つ水揚を見る漁獲物の内マグロ, カツオ, エビ類の大部分, サッパその他の魚類の半ば以上が上記両集散地社在の南方漁業公社の冷蔵庫乃至缶詰工場に引き取られる現況にあるので, 鮮魚の浜値というもそれは公社と地元漁民との間において毎年取り極められる価格をさす結果となっている(本章§2参照)。既述の如くこれらの価格は各魚種により一応の標準を定められてはいるが(第24表), それはどこまでも一応の標準であって, 毎年確然とした取引契約を結ぶマグロ, カツオ類, サッパ, エビ類以外の魚種にあっては, 実際の取引に当って都度売買両者即ち漁民公社間において相対の値極めが行なわれるのを普通とする。

因に1968~1970年度においては各魚種夫々第32表, 第33表に示す価格をもって購入されており, この価格が又当該年度における沿岸全域に通ずる浜値ともなっている。

◎第32表：1968~1969年度南方漁業公社による原料魚購入価格(棧橋又は工場渡, 漁業基地渡の場合は引取り経費分減)

魚 種	単 価	摘 要
マグロ, コシナガ	Rls 42	1尾4kgを基準として1尾当り
スマ, カツオ	20	同 上
サッパ	5	1kg当り
エビ類	25 ~ 30	White Tiger Orangeの種大小混

◎第33表：1968~1970年度南方漁業公社による魚類購入価格(第32表記載の魚種以外のもの。級別は第24表)

引取り条件	級 別	A級(混)	B級(混)
公社所屬船により漁業基地(水揚地)において引取り		Rls 15 ~ 20	Rls 11
BANDAR ABBAS 棧橋乃至公社工場庭先渡		20 ~ 25	15

(ii) 小売価格：鮮魚の消費は沿岸地域に限られ, 北部大消費地域には全て冷凍製品の形をもって輸送を見ているので, 鮮魚に関する限りその小売価格とは沿岸地域においてのみ通用

されるものと考えて良い。BANDAR ABBAS を例にとった沿岸地域における魚種別の小売価格は後掲第34表並びに巻末添附のペルシャ湾産主要魚種一覧表に示す通りとなる。第34表中浜値と小売価格との間の差が極めて不定であり且つ各魚種間に細かい価格差の設けられていないのは次の理由によるものと考えられる。即ち：

- (a) 浜値が前記の如く何処までも公社によって示された一応の標準であって自然の需給関係と必ずしも平行しない場合が起りうる。
- (b) 小売商以外の仲間商人の存在がなく、その小売商も漁民即ち生産者によって兼業される場合が多いので、小売を行なうに際しての一定したマージン率といえるものがなく、結果末端小売価格の決定に当り小売人の気分が作用することなしとしない。

マグロ、カツオ類小売り価格の単位は車切り4ツ切り1ケとなっているものの、胴部、尾部の間における価格差はない。又鮮魚の小売価格は9月～翌年5月の間においてのみ通用を見るものであって、酷暑のため漁業の操業中断を見る6月～8月の間においては対象である鮮魚の供給も中絶し、従って魚類の消費は全て在庫冷凍製品に移行せざるを得なくなるため小売価格も冷凍製品のそれとなる。この場合、冷凍業が公社の独占下にある関係もあり、その価格も TEHRAN 渡しの価格に準ずる結果となり、この価格をもってしては年間平均収入4,000リアル(1Rl, 1Rl ¥ 475、但し商人並びに官吏の場合を除く)という沿岸住民の経済力によっては魚類の消費は不可能に近い至難事となる。因に現況にあっては浜値に季節的の変化が殆ど見られないので、小売価格も酷暑の休漁期を除き大きな変動は見られない。

(2) 加工水産物の価格

(i) 冷凍水産物の価格(第34表参照)

冷凍水産物の需要は殆ど北部大消費地域に限られ、沿岸地域においては鮮魚の供給の杜絶する6月～8月の漁業中断期にあっても極めて少い。従ってその市場価格も第34表記載の公社の定める TEHRAN 価格が1本立ての形をもって全国的に通用を見ている。即ちこの価格が海産魚の生産地であるペルシャ湾乃至オーマン海沿岸地域にもその適用を見ているわけで、この生産地住民にとっては法外とも言える価格が又一方では鮮魚の供給杜絶を見る夏期における彼等の冷凍水産物に対する需要を極度に制約する原因となっているともいえよう。缶詰製品の場合においてもそうであるが、この価格は独占企業である公社によって定められるのであるがその算出基礎はまことに曖昧模稜としていてつかみ所がなく、例えば魚種が同じであればラウンド製品であっても剥皮フィレーであってもその価格が1本立てとなっている場合もあり、理解に苦しむ点が少く

◎第34表：主要漁獲物（鮮魚）並びに冷凍製品価格（1968～1970年、
単位はkg） マグロ類単位は尾

級	等級	魚 種	浜 値 Rls	小 売 値 Rls	冷凍製品 Rls	摘 要
A	1	マナガツオ	30	30	70	冷凍製品形態はラウンド
		ボラ	30	40	60	冷凍製品はラウンド又は卵巣除去
		ムツ	30	35	60	冷凍製品は剥皮フィレー(大)丸(小)
		キス、カマスサワラ	30	30	60	冷凍キスはラウンド、サワラはフィレー
B	2	サワラ、ヨコジマサワラ	195	25	55	冷凍製品(大型)は剥皮フィレー
		クロマナガツオ	195	25	45	冷凍製品形態はラウンド
		カレイ、ヒラメ、シタビラ	195	25	40	同 上
		クロビラアジ(大)	195	25	33	冷凍製品(大型)は剥皮フィレー
		ホウセキハタ、ノミノクチ、アカハタ	195	20	33	同 上
		オオヒメ	195	25	30	同 上
		ニベ、オオニベ、センネンダイ(大)	195	20~25	30	同 上
	3	オニカマス、ヒレナガカンナチ	15	25	30	冷凍製品(大型)は剥皮フィレー
		スギ、スダレダイ	15	20~25	30	同 上
		キヌチ(大)、カイワリ、ナガエバ	15	20	30	冷凍キヌチは剥皮フィレー、他は丸
		ヒレコダイ、チダイ、イシダイ	15	18~20	30	冷凍製品形態はラウンド
	4	ナンヨウザヨリ	9	15~20	20	冷凍製品形態はラウンド
		キヌチ(小)、センネンダイ(小)	9	18	20	同 上
		イケガツオ、オニアジ、小型アジ類	9	15	20	冷凍製品(大型)は剥皮フィレー
	5	フエフキダイ、ハマフエフキ、フトサイトウ	6	10~15	—	
級 等		マグロ、コシナガ	(尾)42	(尾)20	—	1尾平均体重4kgを基準
別 級		スマ、カツオ	(尾)20	(尾)60	—	同 上
外 別		サッパ	5	10	—	
外 外		エビ類(White, Tiger, Orange)	25~30	60~80	100	小売、冷凍価格は無頭

〔注〕 (1) 浜値は BANDAR ABBAS 桟橋もしくは南方漁業公社工場渡(Rls=¥4.75)

(2) 小売価格は BANDAR ABBAS 小売市場価格。

(3) 冷凍製品価格は TEHRAN における小売価格。

(4) マグロ、コシナガ、スマ、カツオの小売価格の単位は普通車切り4ツ切り1個とされているが表においてはこれを1尾当りの価格に換算。但し1尾当りの重量が4kgを極端に下廻るものはその程度に応じて減額。尚4kgを極端に上廻るものは殆ど水揚げを見ない。

(5) マグロ、カツオ、サッパ類は TEHRAN における需要地などから従って冷凍製品とされない。

い。

(ii) 缶詰製品の価格

水産缶詰専業工場としては南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場1ヶ所を数えるのみで、その製品としてはマグロ並びにイワシ油漬缶詰の2種が挙げられる。これに加えカスピ海岸 BANDAR PAHLAVY における CAVIAR の缶詰製品と、農産缶詰の生産にあつては国内でも筆頭に位する ATA 缶詰工場のチョウザメ缶詰が僅かながら市場に出廻っている。別にアラビア半島土侯国の自由港を経由して国内に潜入する日本、中国、欧州各国の製品が別して BANDAR ABBAS 市場には姿を見せるがその数は極めて僅かでありこの缶詰の生産に影響を与える程のものではなさそうである。これ等製品の BANDAR ABBAS における価格は第35表に記載の通りで、この価格よりしても缶詰製品は冷凍製品に比しても尙一般大衆にとっては高嶺の花の感が強く、この沿岸の消費層にはやゝ馴染のうすい商品となっている。尙公社両製品の価格は冷凍水産物の場合と同じく公社独特の算出基礎のうえに決定され、全国的に一律のものとなっている。

◎第35表：水産缶詰の価格（BANDAR ABBAS，缶当たり）

（外国製品はアラビア土侯国経由自由貿易品） R1 = ¥475

品 種	製 造	缶 型	総 量	価 格	
				工 場	小 売
マグロ油漬	南方漁業公社	平2号	g 200	RI\$ 25	RI\$ 30
イワシ油漬	〃	角3号	100	18	20
チョウザメ油漬	イランATA缶詰	平2号	200	—	35
チョウザメ、豆、油漬	〃	平2号	200	—	35
サバ油漬	日 本	平2号	200	—	35
サバ水煮	〃	6 号	200	—	30
サバトマト漬	中華人民共和国	楕円3号	198	—	35

(iii) 塩蔵水産物の価格

塩蔵品としてはマグロ、サバを原料とした製品が出廻っているがその範囲は沿岸地域に限られ、その価格も全国的なものとはいえず不定である。マグロ開き塩蔵の場合2～3kg見当のもの70～100リアル（1R1 = ¥4.75）の間にあるようで、鮮魚に比しむしろ安値となっているのはその原料として鮮度の若干落ちた魚が使用されていることもその一因と思われる。

(iv) 以上の結果、水産物のうち一般大衆消費層に価格上抵抗なく受け入れられるのはB級に属する鮮魚乃至塩魚であり、A級鮮魚、エビ類、冷凍製品、缶詰製品はその価格の上より彼等の日常生活からやゝ遠い存在となっているのが現状である。

§ 5 水産物加工（水産加工業）の現状

(1) イランにおける水産加工業の歴史と特徴。

カスピ海に特産されるこの国代表的水産物 CAVIAR の製造は家内工業的規模において可成りの歴史をもって現在に至っているが、これを除いてはこの国の水産加工業は現在までその歴史も浅くその範囲も狭く又その規模も小さい。第2章§2に既述の通り、イランにおける水産業にどうやら近代的組織と形態とをもつといえる企業の出現を見るに至ったのは1936年、現在の南北両漁業公社の母体となった国策漁業会社 (Iranian Fisheries Co.,) の設立を見た時に始まる。水産加工業に関しては上記国策漁業会社が設立約10年にして南北の両漁業公社に分離を見た時点をもって近代的企業組織への発足に踏み切ったと見る事が出来よう。別して南方漁業公社 (Persian Gulf Fisheries Co., SHILAT JANOUH) は分離当初より水産加工面においても可成りの積極性を示して来ており、更に第2章第8表に示すその持株の配分を見ても明らかな通り軍需食糧の生産を運営目的の1として来ている関係もあり、技術面にあっても当初はデンマーク、次いで米国の助言乃至援助を受け入れ、漁業と平行して缶詰、冷凍製品、更にそれに附随する魚糞 (フィッシュミール) の生産に力を入れて現在に至っている。

ただ、これは同じような設立経過をもつ北方漁業公社 (Northern Fisheries Co., SHILAT SHOMAL) についてもいえることであるが、国策企業の名の下に何れかという独占的な運営に馴染んで来ている関係もあってか現在の事業経営にあっても安易な、更に極言すれば無競争に馴れ切った杜撰な面なしとしない。同じく食品工業にありながら農産、畜産の分野においては従来それら製品に対する需要の大きいことも手伝い、純然たる民間経営の形による大企業も少なくなく (第36表)、これら各企業が良き意味における競争下に外国先進技術の導入、更には外国人技術顧問の常置という工合に製品々質の向上と生産の増加とに極めて積極的であるの

◎第36表：農、畜産関係主要食品工場並びに製品

名 称	所 在 地	主 要 製 品
ATA	TEHRAN	野菜、果実 トマト製品、ジュース、ジャム、鳥肉製品、チョウザメ
SHAMSHED	TEHRAN	果実、野菜、ビクルス、トマト製品、ジャム
MEIKHOSH	MASHAD	果実、ジャム
KAROUN	TEHRAN	野菜並びに畜肉加工品 (スチュウなど)
ARZUMAN	TEHRAN	コンビーフ、ソーセージ、ハム、チーズ、羊肉製品

に比し、水産加工における両公社の運営には、ともすれば“親方日の丸”式の安易な行き方に甘んずる傾向が見えぬでもない。

加工水産物として現在生産を見ているものは冷凍品、缶詰、塩蔵品、乾製品、魚糧（フィッシュミール）であるが、何れの発展途上国にも共通する如く、この国企業にあっても、冷凍、缶詰の如き製品の生産に比し塩乾の如き1次加工品の生産に対しやゝもすると積極的意欲を欠く傾向にあり、一方この国一般の消費能力に照してこれ等一次加工品の生産供給に一層の重点が置かるべきであり、この辺にこの国水産加工業における矛盾が横たわる現況にあるともいえよう。

(2) 水産物加工（水産加工業）の現状

(i) 水産加工原料としての漁獲物

水揚げの多少乃至住民嗜好の如何により現在漁獲物は次の如く利用されている（第37表、尚魚種別に対する嗜好については本章§2第25表を参照）

- (a) 主として鮮食とされるもの：漁獲が散発的而も稀で加工用原料とするに足る水揚げを期待出来ないもの、又は何れかという嗜好が沿岸住民に限られているもの（第37表⑧）
- (b) 冷凍乃至鮮食とされるもの：水揚げが多、やゝ多、少、に属し全国的に愛好されるもの（第37表⑥）
- (c) 缶詰乃至鮮食とされるもの：マグロ、カツオ類並びにサッパに限られているが現在南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場においてエビ水煮缶詰につき試作検討中（第37表⑨）
- (d) 塩蔵とされるもの：マグロ、カツオ類並びにサッパのほかやゝ銜度低下を見るもの（第37表④）
- (e) 乾製品とされるもの：小型のエビ類が煮乾品に、又南方漁業公社においてフカヒレの試作開始（第37表⑤）
- (f) 魚糧（フィッシュミール）とされるもの：食用を忌避されるもの、食慣習のないもの（第37表⑦）

(ii) 冷凍、冷蔵

漁獲物の利用上現在この国において缶詰製品と並び2本の柱となっているのは冷凍製品であり、水揚げ総量（外国船団によるエビ類を除き）の半ば以上がこの両製品原料に当てられているものと思われる。製品の大方は TEHRAN を中心とする北部大消費地域の需要にあてられている。

- (a) 冷凍、冷蔵施設：生産地冷蔵庫としては現在カスピ海沿岸 PANDAR PAHLAVY 並びに BOBALSAR に北方漁業公社が、ペルシャ湾沿岸 KHORAMSHAH 並びに

◎第37表：漁獲の多少と魚種別による漁獲物の利用

利用	水場	多	やや多	少	稀
⑧主として 鮮食				ナンヨウザヨリ, イサキ, ダツ	ヒラ, フトサイトウ, エソ, グルクマ, オオス シハダ, コモンハダ, マツダイ, コショウダイ, イシダイ, ツムブリ, イトヨリ, メガネハギ, ヘ ダイ, カニ類
⑨冷 凍 鮮 食	クロヒラアジ, ホ ウセキハタ, ノミ ノクチ, エビ類	サワラ, オオヒメ, キヌチ, ヒレナガ カンナチ, ハマフ エフキ, センネダイ	ホラ, オホカマス, イ クガシオ, スギ, オ アジ, カイワリ, マ ガシオ, キス, ヒレ ダイ, オホベ, アカ ペン	ナガエ, ヨコジマサワラ, ニベ, ムツ, スタレ ダイ, ヒラメ, カレイ, シタビラメ類	
⑩缶詰, 鮮食	マグロ	スマ, サッパ	コシナガ	カツオ	
⑪塩 蔵	マグロ	スマ, サッパ	コシナガ	カツオ, その他やや鮮度低下の魚類	
⑫乾 製 品		小型エビ類	サメ類のヒレ		
⑬魚 糧 (フィッシュ ミール)			シロシモクサメ, ホホジロ, ヨコレ	ササミヤッコ, ヒメジ, ミノカサゴ, ハタタテ ダイ, ツノダシ, モンガラハギ, イトヒキアジ, クロサギ, コトヒキ, カジキ類, フグ類, サメ類, エイ類	

〔注〕 イランを含む回教国にあっては宗教上の理由により、カジキ類、サメ類、エイ類は鱗のない魚乃至鱗の可視的でない魚とされ食用を忌避される。

BANDAR ABBAS に南方漁業公社が夫々施設を有している（巻頭第1図、第4図参照）。その収容能力その他につき南方漁業公社所属の施設に例をとると第38表の通りとなる。同公社の施設としては従来公社設立当初よりのものがBANDAR ABBAS並びにKHORAMSHAHの両基地に各1を算するのみであったが、1970年1月デンマーク企業の施工によりBANDAR ABBASに更に1施設の増設を見た。更に現在建設を計画中のものとしては南方漁業公社によりKHORAMSHAHに保蔵150トン級のものの1の他KHARGU地区を始めとする湾内2～3があり、これにつき日本施工業者との間に話し合が進められている。又母船式エビ漁業合併企業である英国ROSS Groupによりベルシャ湾沿岸に冷蔵庫新設の動きがあり、南方漁業公社との間に交渉が行なわれている模様であるが、具体的な点については現在尙明らかにされていない。

尙現在この国にあっては生産地、消費地を結ぶ中継冷蔵庫が殆んどなく、これが冷凍

◎第38表：南方漁業公社所属冷凍冷蔵施設説明細

所在地	施設 設立	冷 蔵 庫			冷 結 室			摘 要
		数	収容能力 t	室温 ℃	数	凍結能力 t	凍結温度 ℃	
BANDAR ABBAS	30年前	1	100	-14～-15	1	5	-30	記録逸散 詳細不明
	1970	1	200	-25	1	10	-40	デンマーク企業の施工
KHORAMSHAH	30年間	1	150	-14～-15	1	5	-30	記録逸散 詳細不明

製品の国内普及に対する隘路ともなっているが、この解決については近年政府においても開発計画の一環として積極的な政策を打出して来ている（第11章に記載）。

(b) 冷凍水産物の生産：原料は第39表記載の通りに処理のうえ製品とされる。製品は一般に保蔵2月～3月にして出荷を見るので長期保蔵中にグレーズ欠如を因として発生する製品の乾燥その他の悪変を殆ど見ず、ために生産者はグレーズ欠如による製品の悪変に対する理解をもち得ず、結果グレーズの必要性は認められず、凍結後の製品にグレーズを施す観念も現在尙生れて来ていない。冷凍製品の方々はBANDAR ABBAS 工場において生産され、最近1ケ年の同工場における生産高は第40表に記載の通りである。

◎第39表：原料別による冷凍製品の形態並びに包装

製品形態	包装	原料魚
ラウンド	40～50kg ガニーバッグ	小型～中型の魚類
剥皮フィレー	1kg ポリ袋、マスターカートン	大型の魚類（同1魚種にあっても）
ケーキ	1kg ポリ袋、マスターカートン	キス（ラウンド）、エビ（無頭又は煮剥）

◎第40表：南方漁業公社BANDAR ABBAS 冷凍製品生産高（1ケ年間）

年月	種別	A級魚	B級魚	無頭エビ	フィレー	キス	合計
1968.	4	kg 1,456	kg 3,463	kg 60	kg —	kg 195	kg 3,634
	5	1,380	40,175	—	210	—	41,765
	6	124	36,888	60	1,815	—	38,887
	7	279	18,664	—	—	—	18,943
	11	6,456	33,176	3,642	4,068	5,196	52,538
	12	360	36,066	557	2,571	572	40,126
1969	1	180	12,133	—	893	98	13,304
	2	—	—	4,152	1,801	—	5,953
	3	—	—	3,821	2,973	—	6,794
計		10,235	211,735	12,292	14,331	6,061	254,654

- 〔注〕 (1) A級、B級魚形態はラウンド（魚種については第24表）
 (2) 8月～10月は6月～8月の出漁中断により原料入荷を見ず

KHORAMSHAH 工場における生産はBANDAR ABBAS 工場におけるものの50%見当と見て良く、又カスピ海においては北方漁業公社によりチ・ウザメその他の冷凍が行なわれているがその数字については現在入手が不能である。BANDAR ABBAS 工場においては1969年度より小型エビ原料利用の一環として煮剥冷凍エビの製造が始

められているが、現段階にあっては尙試製の域を出ていない。因に外国合併企業による船団冷凍エビ製品は第7章に記述の通り年間5,000～7,000トンとされるが、この数字はイランの水産加工生産には加えられない。

(iii) 水産缶詰

現在市場に出廻りを見せている水産缶詰の種類並びにその生産者は前節第35表、本節第36表並びに第42表に記載の通りであるが、水産缶詰の製造を専業としているのは南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場1ヶ所であり、その製品はマグロ油漬並びにイワシ油漬の2種となっている。水産缶詰はその価格面より大消費地域における1部所得層を除き必ずしも普遍的な需要の対象となり得ない関係もあり、製品の90%は TEHRAN 地区に出荷される現況にある。尙最近産缶詰分野における大手生産者たるATA工場 (TEHRAN) がベルシャ湾産のマグロ、カツオ類を原料とする缶詰の生産に意欲を示し始めているが、独占国策企業たる南方漁業公社の抵抗に遭い現在尙その実現を見ていない。

- (a) 缶詰工場の施設並びに規模：この国唯一の水産缶詰工場である南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場施設の概要を第41表として記載する。附設冷蔵庫 (第38表) 並びに魚糧工場 (第45表) と共に約30年前当公社の前身たる国策漁業公社創設の際デンマーク技術の導入により建設を見たものであり、その後1968～1969年に内部の改造が行なわれているものの設備に関しては、1969年度新規購入の米国CANCO 423-IES-00 巻締機1基の他は全て設立以来のものを使用して現在に至っている。

◎第41表：南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場缶詰製造設備明細
(SKANDIAシーマー2基は丸缶用に改造)

設 備 区 分	製造 ライン 数	缶 詰 巻 締 機			肉 詰 注 油 装 置	殺 菌 釜	
		CANCO 423-IES-00 巻締機	デンマークSKANDIA (4ロール) アドリアン型	デンマークSKANDIA (2ロール) アドリアン型		米国ROBINS社製堅型レトルト	米国製横型
		数 能力 (缶/分)	数 能力 (缶/分)	数 能力 (缶/分)		数 収容能力	重油焚
マグロ油漬缶詰	1	2 最高 90	2 平均 27		1	ツナ2号缶 800-900缶	1
イワシ油漬缶詰	1		1 平均 27	3 平均 27			

- (b) 水産缶詰の生産：現在生産を見ている水産缶詰の種類と特徴は第42表に示す通りであるが、生産高において優位に立つのは南方漁業公社の製品即ちマグロ油漬、イワシ油漬の両製品であり、最近におけるその生産高の一例を第43表として掲げる。第42表中にも明らかな通り、SOLID PACK と表示された実物の内容がFAKESであったり、

◎第42表：水産缶詰の種類（使用油は綿実油）

品 種	生産者	表示名称	缶型	総量	固型量	主原料	内 容
マグロ油漬	南方漁業公社	TUNA・SOLID PACK IN OIL	平2号	200g	150g	マグロ、コン ナガ、カツオ	各魚種混、フレーク、凍乾油漬
イワシ油漬	"	SARDINES	角3号	100	80	サッパ	大小型混、凍乾油漬
チョウザメ 油漬	ATA 缶詰	STURGEON IN OIL	平2号	200	150	チョウザメ	斜皮魚肉油漬
チョウザメ、 豆油漬	"	STURGEON IN OIL & BEANS	平2号	200	—	チョウザメ、 豆	魚肉、手亡略等量

◎第43表：BANDAR ABBAS工場缶詰生産高（1967～1968）

年月	マグロ油漬	イワシ油漬	年月	マグロ油漬	イワシ油漬
1967 1	190,281	35,860	1968 1	186,262	79,481
2	44,815	162,696	2	95,444	168,292
3	161,133	102,091	3	62,525	255,458
4	179,235	40,996	4	138,717	125,058
5	245,231	43,709	5	320,232	18,347
6	58,529	6,427	6	114,865	—
7	6,531	4,800	7	—	—
10	78,057	—	10	145,591	—
11	193,545	—	11	265,428	—
12	268,675	4,320	12	220,502	3,894
計	1,426,032	400,899	計	1,549,566	560,530

- 〔注〕 (1) マグロ油漬は平2号缶200g、イワシ油漬は角3号缶100g
 (2) 例年8月～9月は6月～8月の出漁中断により原料の人荷を見ず缶詰の生産中止となる。

イワシの魚体の大小選別が行なわれていなかったり、又 TUNA と表示しながら原料魚としてカツオ類を区別しなかったり、製造上如何と思われる点が少なくないが、これは消費者は勿論生産者にあっても製品の本質を充分に理解出来ずにいる現状にあるためであり、将来の解決にまつべき問題が多い。

BANDAR ABBAS 工場現存の設備による缶詰の製造は日産にしてマグロ油漬13,000～15,000缶、又はイワシ油漬10,000～13,000缶となっている。同工場においては更に軍納マグロ油漬缶詰の製造が時に行なわれ、又既存の原料以外による缶詰の試作も手がけられており、別して小エビ水煮缶詰については試作の段階から採算の検討に移る時点に入っている。

因に国内においては現在尚ブリキ板の生産を見ておらず、缶詰用空缶は完成品乃至半

製品の形をもって米国或は東欧圏よりの輸入に依存している。

(IV) 塩蔵水産物

塩蔵水産物の筆頭はカスピ海産の CAVIAR であり、北方漁業公社の BANDAR PAHLAVY 基地において年間 200 トン近くの生産を見ている。

海産魚の塩蔵品はベルシャ 湾沿岸住民に一部の需要を見る以外、全国的には嗜好をもたれていないためその生産も統計に現れぬ程に微々たるものである。代表的製品としては第 44 表に掲げる堅塩物で、これは塩戻し

◎第 44 表：代表的塩蔵魚

の上スチュウ (KHORESH)

などに料理される。沿岸漁

民により家内生産されるの

を一般とするが、時に缶詰

品 種	製 造 形 態
マグロ、カツオ類	骨は腹開き、約 30% の激塩漬
サッパ	丸、激塩又は塩水漬、時に珪砂混和

工場においても缶詰原料としてや、鮮度に難点のあるものが塩魚用に向けられて生産を見ている。

(V) 乾 製 品

燻乾製品が全国的に好まれているが、乾製品全般としての市場への出廻りは少い。冷凍製品原料としては小型に過ぎるエビの塩水煮乾品が製造されているがその生産量、出荷範囲共に極めて限られたものとなっている。1969 年度以来日本よりの引合により BANDAR ABBAS においてフカヒレの試作が始められている。

(VI) 魚糧 (フィッシュミール) 製品

◎第 45 表：南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場、魚糧製造設備明細 (デンマーク製)

装置 数	原料送り コンベア ー	スチームク ッカー (120 °C 煮熱)	クラッシャー (クッカー 共 10 HP)	オイルセパ レーター (10 HP)	ドライヤー (熱風 10 HP)	ベンチレータ ー (10 HP)	ストレ ーナー	精粉機
基 数	1	1	1	2	1	1	1	1

〔注〕 魚油採取は現在操業中止

南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場に設置の魚糧製造装置がこの国における殆ど唯一のも
のと言える (第 45 表)。缶詰、冷凍フィレー製造の際の廃棄物、この国において食慣習のない
カジキ、サメ、エイ類その他の小型魚類が原料とされ、製品は 60～90 kg ガニーバック詰と
して出荷される。生産は不定であるが、一例として 1969 年 2 月に 35,264 kg、3 月に
16,922 kg、4 月に 18,120 kg の生産が記録されている。価格上肥料としては需要の対象
となり得ず専ら飼料向けとされている。近年魚油の需要が皆無となり、ために採油は現在中止さ
れている。

第4章 水産物輸出入の動向

§1. イランにおける水産物の輸出

イランよりの輸出水産物としては現在カスピ海に生産される CAVIAR（塩蔵チョウザメ卵）とペルシャ湾に多獲を見る冷凍エビが国の南北を代表する2本の柱となっている以外には、カスピ海産のチョウザメその他、ペルシャ湾産の塩乾魚が夫々ソビエト乃至クウェイトその他の近隣地区に出荷されているが、これ等は何れも統計に載る程の数字とはなっていない。

(1) CAVIAR（塩蔵チョウザメ卵）

カスピ海における CAVIAR の生産高は現在年間約200トンと概算され、最近5年間におけるその輸出額がイランの総輸出中に占める地位は第46表に示す通りである。

◎第46表：最近5年間におけるイランよりの品目別輸出高（R1.リアル=¥475）

品目 区分	1964～65		1965～66		1966～67		1967～68		1968～69	
	金額(100 万リアル)	%	金額(100 万リアル)	%	金額(100 万リアル)	%	金額(100 万リアル)	%	金額(100 万リアル)	%
手織ジュウタン	27334	238	34056	251	31882	270	37182	273	44698	275
綿及びその製品	26147	228	37578	277	21620	183	28458	209	32168	198
生産及び乾燥果実	14837	129	17213	127	14932	126	16063	118	21261	131
毛皮及び皮革	9707	85	7601	56	10812	92	8940	66	10265	63
金属鉱石	6516	57	8065	60	6953	59	5266	39	5516	34
◎CAVIAR	2552	22	2757	20	2881	24	3091	23	3371	21
Gum Tragacanth	3534	31	2865	21	3197	27	2606	19	2999	18
クミン、キャラウェイ	1269	11	1454	11	3326	28	2234	17	2005	12
羊毛及びその製品	3858	34	2013	15	2027	17	2369	17	2004	12
Scum & Refuse	1993	17	2080	15	2247	19	1256	09	1925	12
羊腸製品	1097	10	1009	07	1221	10	1482	11	1765	11
その他	16007	138	18896	140	17052	145	27379	191	34700	213
計（除石油）	114851	100	135586	100	118150	100	136326	100	162680	100
石油及び製品 （参考）	748503		892150		920659		1334436		1355091	

これを仕向国別に見ると第47表の如く生産の半ば以上が米国とソビエトに輸出されている。

CAVIAR 製品は従来この国における輸出水産物の1枚看板的存在となつて来ており、現在尚そ

の品質についての著名度は世界的地位を保っているものの、これまでの無計画な漁獲別して密漁に加え近年カスピ海ソビエト領沿岸における工業化の進展に影響されチョウザメの減産を来しており、第46表中のCAVIAR 輸出数字についても金額的に水平線を辿っていることが数量的に生産減を示す事実を物語っているといえよう。政府としてはこれに対処すべく漁獲操業の許可制限、密漁の厳重な取締りによるチョウザメ資源の保護に併せ、北方漁業公社

◎第47表：CAVIARの輸出
(1969概数)

区分	輸出	トン	%
アメリカ		70	35
ソビエト		50	25
フランス		15	8
内需その他		65	32
計		200	100

(SHILAT SHOMAL, Northern Fisheries Co.) をしてその増殖に当らしめているが尙逐年減産の傾向にある現況となっている。

(2) 無頭冷凍エビ

この国にあってはCAVIAR に比し輸出品としての歴史は浅いものの、現在冷凍エビ製品の輸出額はCAVIAR 製品のそれを上回るものと思われる。しかしその輸出機構を見る場合、現在にあってはイランの企業により生産された製品が直接イランの企業により輸出をされているものではなく、第7章に記述する外国船団による製品がイラン政府を介して輸出を見するという特異な仕組となっている。例を対日輸出にとって見ても、その場合英国系合弁企業であるROSS Group 乃至クウェイト系合弁企業であるGulf Fisheries Co. の生産になる製品がイラン政府を仲立ちとして上記企業より直接日本に向け輸出される形をとる。この場合政府は各船団企業より生産額の40%に当るRoyalty を受けとることとなるがイラン政府の輸出実績とはならないため同国の輸出統計にその数字の載ることはない。従って第48表並びに第49表に示す数字はイランの輸出統計に公表されているものではなく、第48表は最近に

◎第48表：外国船団
によるエビ漁獲

おける漁獲の実績記録より、第49表は日本における輸入実績より夫々作製したものである。先の章にも記述の通り現在尙イランにおいては輸出冷凍エビの生産を対象とする企業が存在はなく、ベルシャ 荷沿岸漁民のエビ小型トロールによる漁獲は数量的にもさして大きいものとはいえず、且つ全てが国内需要に充てられている関係上、第48表に示される外国船団による漁獲の数字がそのまま冷凍製品とされて国外に持ち出される。即ちイランよりの冷凍エビの輸出総量と見られることになる。

日本を始めとする冷凍エビについての各輸入国は夫々自国とイランとの間における輸出入収支のうえより、イランよりのエビの輸入がイラン

◎第49表：イランより
日本への冷凍エビ輸入
(単位1,000ドル)

年度	数量	金額
1966	t 56	102
1967	605	1,055
1968	480	984

政府乃至企業より直接行なわれるよう、即ちイラン政府が外国船団企業より受けとる40%の Royalty を、現行の現金にかえてエビの現物によることとし、こうして受けとった冷凍エビ製品をイラン政府乃至企業の手より輸出する形をとることにより輸出入両国間における貿易収支の均衡を図ろうとする要望を強めて来ている。更に1970年度において南方漁業公社 (SHIL-AT JANOUH, Persian Gulf Fisheries Co.) が日本よりエビ冷凍母船 (3,677トン、マクロ運搬船改造) を購入したこともあり、遅くも1971年度よりはイラン企業の生産になる冷凍エビ製品がイラン貿易統計の数字面に実績を印して輸出されてゆくものと思われる。

(3) その他水産物

(i) カスピ海産魚類：チョウザメ漁獲の60%以上がソビエトに、20%以上が米国に冷凍魚として輸出されているというも、その正確な数字については現在入手不能である。

(ii) ペルシヤ湾並びにオーマン海産魚類：巻頭第1図中④地区における塩乾魚がクウェイトその他の近隣地域に出荷を見ているがこの数字についても正確な記録乃至統計は見られない。

§ 2. イランにおける水産物の輸入

正式なルートによる水産物の輸入は皆無であると見て良い。只ペルシヤ湾の対岸アラビア半島 (正確にはその一部のMAZANDAM 半島) OMAN 地区土侯国にあるDIBAI その他の自由港を経由する密輸入品が極めて僅かながら国内市場に散見される (第50表)。

因に沿岸漁民はこのルートにより漁網その他の漁具資材を入手する 경우가少くない。

◎第50表：密輸入水産物誌の一例

国 名	製 品 名
日 本	サバ水煮缶詰、サバ油漬缶詰
中華人民共和国	サバトマトソース缶詰
ア フ リ カ	イワシ水煮缶詰、イワシトマト漬缶詰
ノ ル ウ ェ イ	イワシ油漬缶詰
ポ ル ト ガ ル	アンチョビ油漬缶詰

第5章 漁港並びにその関連施設

現在漁港として数えられるものは巻頭第4図に示す通りカスピ海沿岸にあっては BANDAR PAHLAVY, BOBALSAR, ペルシヤ湾並びにオーマン海沿岸においては CHAH BAHAR, JASK, BANDAR ABBAS, BANDAR LENGEH, BANDAR DAYER, BANDAR BUSHIRE, KHORAMSHAH, があげられるが、漁業関連施設として必要不可欠な冷蔵、製氷、砕氷、漁獲物の水揚、魚市場等の施設は現在尚何れの港にあって完備されていない。第3次開発5ヶ年計画(1963~1968年)において達成を見た港湾施設の拡充は第51表に示す通りであるが、各港共に一般商港としての設備が優先され、上記漁港として必要な関連施設の整備については尚計画の実現を見ていない。現在の漁船が殆ど地元漁民に属する超小型船であり、従ってその水揚量の少いことも上記施設の必要性に緊急度を与えていない一因ともいえようが、漁業の開発に伴う大型漁船の導入につれ、漁獲物の水揚、その鮮度の保持その他の必要性よりこれ等施設の実現も近い将来にあるものと思われる。尚1969年度より発足している第4次開発5ヶ年計画の環境として BANDAR DAYER, BANDAR LENGEH, JASK (何れもペルシヤ湾乃至オーマン海沿岸) の各漁港施設の拡充整備が繰り込まれている。

◎第51表：第3次5ヶ年計画による港湾施設の拡充(イラン企画庁)

港 名	年 次	
	1963	1968
◎ BANDAR ABBAS	75	1,500
◎ BANDAR BUSHIRE	70	200
◎ BANDAR PAHLAVY	150	250
◎ KHORAMSHAH	970	970
BANDAR SHAHPOOR	600	1,000

〔注〕(1) 数字は年間荷物取扱能力(単位は1,000トン)

(2) ◎印は漁港としても使用されている港

第6章 漁業（水産）関連産業

§ 1. 製氷業

国内における製氷工場数は10を数えるがその規模は全て従業員数100以下のものとなっている（第2章第7表参照）。これを国内地区別の分布に見ると第52表の通りとなり、漁業に直接関係を有するもの

◎第52表：製氷工場の地区別分布

はKHUZESTAN, PERSIAN GULFの両地区（州）の5工場を数えるに過ぎない。しかもこのう

地 区（州）	数	漁 業 基 地
TEHRAN	5	
KHUZESTAN	3	KHORAMSHAH
PERSIAN GULF	2	BANDAR BUSHIRE, BANDAR ABBAS

ち3工場はKHORAMSHAHを中心とするベルシ・湾々奥部KHUZESTAN州に偏在しており、これを除く沿岸1,800 km（1,110哩）の間には僅か2工場あるのみである。且つその生産能力もBANDAR ABBAS 所在の工場を例にとっても日産5トン程度と低く、現在の地元小型漁船に供給するにも極めて不十分な状況にある。この意味において製氷施設の増強拡充が、この国漁業、別して年間を通じ比較的高温下にあるベルシ・湾並びにオマーン海沿岸における漁業の開発にとり不可欠な課題の1ともいえよう。又これが6月～8月の夏期に中断を止むなくされる漁業操業への解決策ともなろう。

§ 3. 漁具漁船関係産業

漁網その他漁具の生産、漁船の建造、漁船用機関の製作に関する施設は皆無とも言える現況にあり、漁民におけるそれらの手当は現在次の如く行なわれている。即ち：

(1) 漁網その他漁具

カスピ海沿岸GILAN地区（州都はRASHT、巻頭第4図参照）に製網工場1を数える他ベルシ・湾沿岸には現存しない。従ってこの沿岸漁民においては必要資材の1切を対岸アラビア半島土侯国の自由港たるDIBAI, SHISHAなどにおいて日本、ドイツ、ノルウェイその他の外国製品を手当している。

(2) 漁船の建造乃至修理

極めて小型の漁船造船所は BANDAR LENGEH その他ペルシヤ湾沿岸 2～3 の漁業基地に見られるも、少し大型の漁船の建造に関してはパキスタンを始めとする外国の造船所に依存している。修理、定期的点検程度の作業は上記の国内造船所乃至 DIBAI その他アラビア沿岸土侯国の港に所在する造船所において行なわれる。

(3) 漁船用機関その他

完成品の殆どは輸入に依存しており、その修理のみが沿岸主要漁業基地において行なわれる。但し修理の程度によっては TEHRAN などの工業地区に依存する。因に南方漁業公社 BANDAR ABBAS 工場乃至冷蔵庫の機械設備の修理に際しては殆どの場合 TEHRAN 在の製作所乃至修理工場に送られている。

第7章 現地における漁業関係合併企業

イランとの合併形態をとる外国企業には現在次のものがある。

§1. ペルシャ湾における母船式エビ漁業

(1) 母船式エビ漁業の現況

1969年現在第53表に示す2企業がイラン政府許可の下に表記の如き規模において、合併の形態をもって操業を行なっている。両船団による最近の漁獲高は第4章第48表に、更に漁獲

◎第53表：外国企業との合併による母船式エビ漁業（1969）

① Gulf Fisheries Co.

企業 国籍	漁業基地 (第1図参照)	操業地域 (第1図参照)	母 船		トロール漁船	
			船 型	数	船 型	数
クウェイト	BANDAR DAYER	KHARGU島沖	5,000トン	1	75ft 300HP	31
		DAYER 沖	1,200トン	1	95ft 400HP	3
		BANDAR ABBAS	750トン	1	120ft 500HP	1
		沖			280ft 900HP	1
		計		3	計	36

② ROSS Group (Ross Persian Seafoods Co.)

企業 国籍	漁業基地 (第1図参照)	操業地域 (第1図参照)	母 船		トロール漁船	
			船 型	数	船 型	数
英 国	BANDAR BUSHIRE	①と同じ	2,500トン	1	78ft 型	14

されるエビのサイズ別比率は第54表に夫々記載の通りであり、生産される無頭冷凍エビ製品は、この国貿易統計の数字面には現われぬもののイランよりの輸出水産物の筆頭的地位を占めている。(第4章参照)

両船団はイラン政府の代行機関であ

◎第54表：ペルシャ湾産エビ各サイズ混獲率

サイズ	%	サイズ	%	サイズ	%
PS/1b		PS/1b		PS/1b	
<15	0.03	26/30	15.1	41/50	18.0
16/20	52	31/35	20.6	51/60	6.2
21/25	163	36/40	17.4	>61	1.2

◎第55表：外国船団母船式エビ漁業操業契約内容（1969）

契約条件	船 団	Gulb Fisheries Co.	Ross Group
契 約 期 間		6ヶ月毎に更新	1967年3月より6ヶ年間 (現在継続中)
保 証 金		な し	契約時15万ドル 船団到着時35万ドル
Royalty		漁獲量の40%を現物又は現金 (最低責任量制)	同 左
船団の提供 (イラン側において要請ある場合)		な し	下記価格により提供する。 2年後：船価の30%引き 4年後：船価の60%引き 6年後：無償

る南方漁業公社(SHILAT JANOUB, Persian Gulf Fisheries Co.)との間に第55表に記載する内容の契約を締結の上6月～8月の酷暑の期間においても中断することなく殆ど周年の操業を行なっている(但し第2章§2に記載する禁漁期3月～7月上旬の間においては操業を中断す)。英国系ROSS Groupにあっては現地合弁会社としてRoss Persian Seafoods Co.の名称を用いているが、クウェイ系Gulf Fisheries Co.の場合は特異の別称を用いていない。後者にあっては操業に際し各船にイラン人漁夫10～15名を乗船せしめている。

操業中南方漁業公社は両船団に対し監督官(Superintendent or Supervisor)を乗船せしめ漁獲を確認することにより上記40%Royaltyの完全徴収を計っている。尚Royaltyについては現在次の理由によりエビの現物では受けとられず、全て現金徴収の形がとられている。即ち：

(i) 現在派遣の監督官人員の範囲においては漁獲されるエビの現物を正確且つ公平に40%、60%に分けることが至難である。

(ii) 現物を受理してもこれを陸岸まで輸送する運搬船、更に陸上における保管施設即ち冷蔵庫が共に現在尚充分とはいえない。

(iii) 外国船団より現物を引き取る場合には6ヶ月以前にその旨の予告を行ない、6ヶ月後15日以内に引き取りを完了すべき契約となっており、これを実際に遂行するための配船が困難な現況にある。

因に上記両企業その他日本企業たる南方漁業開発株式会社が1954年資本金1億5,000万円（日本側出資5,000万円）の現地合併会社を設立、爾後技術協力の形に切り替えのうえ操業を続けて来たが、40%のRoyaltyをもってしては採算上に難点を生じ1966年以降は操業を中断、現在に至っている。

(2) 母船式エビ漁業の将来

(i) 新規合併企業に対するイラン政府の許可方針

新規合併企業に対する南方漁業公社の許可方針は次の如く極めて消極的である。即ち：

- (a) 資源保護の見地より現行両企業以外の新規企業に対する許可は与えない。
- (b) 西独、ノルウェイその他の西欧諸国よりRoyalty 50%を条件とする交渉あるも一切これを拒否している。
- (c) 現行両企業の何れか一方が解約乃至操業中止を行なう場合以外の新規許可については全く考慮の余地がない。

(ii) 母船式エビ漁業に対する南方漁業公社の意欲

現在南方漁業公社はペルシャ湾における母船式エビ漁業の自主操業に対し極めて意欲的となっており、これが一面において合併企業新規許可に対する同社のきびしい方針に反映しているものと考えられる。同社の抱く強い意欲の現われとして1970年度においては日本より冷凍母船の購入が行なわれ（前出）、これに附属するトロール漁船についても至急建造の方向に向っている。更に漁獲物受け入れのための陸上施設としては、1970年初頭に保蔵能力200トンの冷蔵庫の新設を完了（詳細は第3章に記載）。別にABADAN、BANDAR BUSHIRE、BANDAR LENGEH（第1図、第2図参照）の沿岸各漁業基地における200トン～500トン級冷蔵庫新設をも計画中ときいている。上記日本より購入の冷凍母船は既に1970年、基地BANDAR ABBASに廻航を見ているので、南方漁業公社による母船式エビ漁業自主操業の実現は極めて近い将来にあるものと思われる。

その場合、ペルシャ湾の何れかといえば、狭大なエビ漁場における都合3船団の操業がエビ資源に及ぼす影響が考慮される結果、現行両船団の一方即ち契約が6ヶ月の短期更新となっているクウェイト系Gulf Fisheries Co.の操業許可に対する延長更新が中止される見通しが強い。

§ 2. ペルシャ湾における真珠母貝の採取並びに養殖事業

(1) ペルシャ湾における真珠母貝の採取

◎第56表：日本産、ペルシャ湾産真珠母貝主要種

産 国	種 名	通 称	摘 要
イ ラ ン	<i>Pinctada ulgaris</i>	MAHAR	アコヤガイ近似
	<i>P. margaritifera persica</i>	SADAI FE	クロチョウガイ近似
日 本	<i>Pinctada martensii</i>	アコヤガイ	日本養殖真珠母貝
	<i>Pinctada margaritifera</i>	クロチョウガイ	真珠粒大

(i) 真珠母貝の種類

◎第8図：真珠母貝生息地域並びに養殖場所在地

並びに採取地域

◎MUGAM：母貝採取地

◎QAIS：養殖場所在地

ペルシャ湾に生息する



◎：SADAI FE母貝生息地域

真珠母貝の主要種は第56

表の通りであり、その採取の歴史は可成り古い。

即ち、ペルシャ湾に生息する両主要種の内

Pinctada

vulgaris (イラン名

MAHAR) は日本産

Pinctada

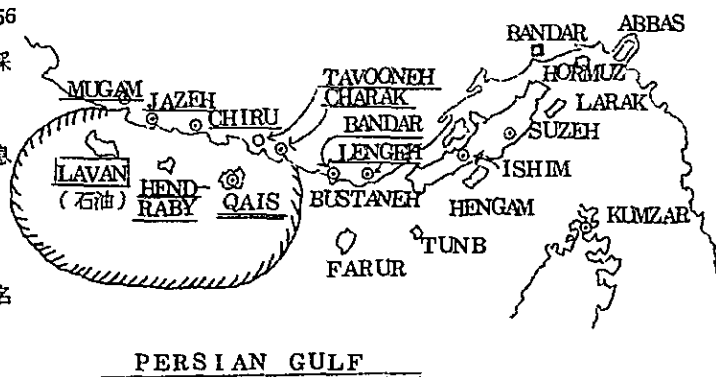
Martensii (和名アコヤガイ) に近くその直珠は小粒ではあるが良質のため古くよりペルシャ湾の特産品として欧州方面にまでその名声を馳せ、第8図に示す地域の漁民経済に少なからず寄与して来たのであるが、日本産養殖真珠の世界市場進出と共に衰退の一途を辿り今日に至っている。

(ii) 真珠母貝採取の現状

(a) 採取の対象となる母貝種：前記兩種共採取されるが日本産養殖真珠に近似のMAHAR

種 (*Pinctada vulgaris*) は価格面において日本品との競争に難点があるため、

採取の主目標は現在真珠粒の大きいSADAI FE 種 (*Pinctada margaritifera*)



Persica)に置かれている。

(b) 採取地域：LAVAN, HENDRABY, QAIS の各島を含む BUSTANEH, CHARAK より MUGAM に至る沿岸 (第 8 図参照)

(c) 採取の方法：通常 8 人前後の潜水夫と 4 人前後の助手とが 1 舟を構成し、潜水による採取を行なう。潜水に当っての特別な潜水服その他の装置は用いられない。

(d) 採取時期：5 月下旬～9 月下旬の夏期。この期間を除いては水温が 25℃以下となり、この水温は沿岸漁民の潜水にとり低温に過ぎ操業は中止される。

(e) 採取高：各地域共 1 日 1 舟の平均採取高は殻付母貝 500～900 個、最高 4～5 トンの記録あり。この内真珠を含むものは 10～15%、肉は食用となる。

(f) 1 日の採取時間：午前 6 時 (日の出) より正午まで、午後は脱殻作業が行なわれる。

(g) 資源の保護：各地域共採取継続 3～4 年にして母貝の激減を見るので採取場所を移動し爾後 3～4 年は新規 (隣接) 場所において採取を行ない、その間における前場所の母貝増殖を計る。地域によっては海中に小枝を投入することにより母貝の繁殖を助けている。

(2) 真珠母貝養殖合併事業の概要

1967 年度よりオーストラリア企業とイラン民間企業との間に SADAI FE 種母貝の養殖について合併操業の開始を見ているが同企業は外部に対し極端な秘密保持政策をとっている関係もありその詳細については不明である。以下に記する概要は現地漁民を介し僅かに知り得た現状に過ぎない。

(i) 養殖場の所在：ペルシャ湾 QAIS 島 (第 8 図参照)

(ii) 対象母貝種：SADAI FE 種 (*Pinctada Margaritifera Persica*)

(iii) 母貝の入手：初年度 (1967 年) においては LAVAN 島 (第 8 図参照) より 1 kg 当たり 50 リアル (1Rl = ¥ 4.75) をもって 1 日 20～30 kg を購入。別に 6 人構成の自社舟をもって LAVAN 島において母貝の採取に従事。

(iv) 操業の現状：現在尙試験期にあり、操業結果については不明。

(v) その他：現在オーストラリア側よりの現地常駐は見ておらず、QAIS 島知事 (Governor) がイラン側代表者 (Representative) の 1 人となっている。

第8章 イランにおける水産行政

◎第57表：イランにおける水産行政に関与する官庁（1970）

省	名	所 管
Ministry of Defence		南方漁業公社運営の監督
Ministry of Education & Training		北方漁業公社運営の監督
Ministry of Agriculture		農業行政全般
Ministry of Science, Research & Higher education		教育, 試験, 研究
Ministry of Agricultural produce & Consumer goods		消費行政
Ministry of Natural Resources		資源関係

財政に関する面を除き多少共水産行政に関係をもつ機関は第57表に記載の通りであるが、これ等機関の細部にわたる機能乃至所管、さらに各機関間の横の関連については資料の入手不能のため記述することが出来ない。只ペルシャ湾並びにオーマン海沿岸（島嶼を含み）に対する行政に関しては漁業を含め、新たに1州として分離を見たペルシャ湾並びに島嶼地区州（州都 BAN-DAR ABBAS）知事（Governor General）の行政権が上記中央各機関と平行して強く行使されるようになった。

第9章 水産教育並びに調査研究

§1 イランにおける一般教育の現状と水産教育

(1) イランにおける一般教育の現状

◎第58表：イランにおける教育施設（1968，教育省統計）

教育施設	施設数	就学者数	摘 要
初 等 学 校	14740	2378082	7才就学義務制，修学年数：都市6年，地方4年
中等高等学校	1682	579716	6ヶ年 前期（中等基礎課程）3年 後期（高等専門課程）3年
技術職業学校	118	15956	実科教育
教員養成所	64	5692	教員の養成
専門学校	4	58000	工科系2，音楽科系1，社会科学科系1 TEHRAN(2), TABRIZ, MASHAD, ESFAHAN, AHWAZ, SHIRAZ
総合大学	7		
Literacy Corps	11726	438804	詳細は本文中に記述

1968～1969年度における7才以上のイラン人1,880万人（概数）の内文盲人口は1,270万人（概数）と推定され，その率は67.6%と決して低いとはいえない。政府の積極的な教育政策により近年教育施設も拡充の傾向にあるものの各施設と其所に就学する学生の数は1968年度においても尙第58表に示す範囲であり，高度の教育を受けるために1969年現在約27,000の人口が留学生として外国に渡っている（第59表）。イランにおける教育，別して初等教育の普及を阻害し文盲率の低下に対し隘路となっているのはその広大な国土（16,360万ヘクタール，日本の約4倍）にあって寡疎人口地域の占める比率の高いことであり，かかる地域に対する教育の普及，当面の問題としては文盲率低下の対策の一つとして政府は1963年度よりLiteracy Corps と呼ばれる特殊 ◎第59表：イラン留学生の国別分布（1968，高等教育省調べ）

な教育政策を打出し大いに成果を収めている。この制度は高等学校教育課程修了者の中より軍の指導の下に教育挺身隊とも称さるべき組織を編成，これを指導者として僻地に送り込み一定期間にわたりその地の教育に当らしむるものであり，現在まですでに130

国 名	留学生	国 名	留学生
米 国	8,000	トルコ	1,088
西 ド イ ツ	5,000	ス イ ス	591
英 国	3,000	カ ナ ダ	246
オーストリア	1,400	レバノン	154
フ ラ ン ス	1,230	イ ン ド	87

万を越す文盲者の低減に寄与している。

(2) イランにおける水産教育

水産教育と銘を打って記述するに価する程の独立した施設の存在は現在尚イランにはない。水産教育に多少共関連すると思われる施設は：

(i) Fish Management College

カスピ海岸

◎第60表：Fish Management College の概要

BANDAR PAHLAVY に	所在地	学生	修学	課程乃至目的
	BANDAR PAHLAVY	25名	2ケ年	漁業組合指導者乃至研究員の養成

設立を見ている施設で政府により運営される。その概要については第60表に記載の通りで、カスピ海漁業を対象とする特殊な形態のものである。

(ii) 大学、高等学校、技術職業学校

大学、高等学校の何れにおいても水産に関する専門の課程乃至講座をもつものはなく、又技術職業学校にあっては水産を看板にしているものはない。現在水産に関係する省庁、企業、例えば漁業公社において指導的立場にある幹部もその工場にあって技術面を担当する職員もその学歴は全て大学乃至高等学校において生物学、化学或は機械学の課程修了となっている。しかも生物学、化学、機械学というもその大方は一般基礎課程に属するものであって、魚類学は勿論水産動物学、食品化学、冷凍機乃至水産冷凍冷蔵といった直接水産専門技術に応用さるべき課程乃至講座は何れの施設にも設けられておらず、従ってこれ等水産に関する実技習得に不可欠な実習船、実習場の附設も勿論見られない。

(iii) 外国留学

水産技術の習得を専門の目的としているのは1970年現在18名が訓練生とし政府よりソビエトに派遣されているほか日本の技術協力による漁労技術訓練生が毎年1～2名11ヶ月の期間をもって現在まで6名の派遣を見ている。欧米諸国への留学生の殆どは実技の習得を離れた基礎座学の修学に何れかといえば意欲を示す傾向にある。

§ 2. 水産に関する調査研究

1936年イラン政府の要請に基きデンマーク生物科学センター所長DR HERALD BEL-GUARDを団長とする調査団がペルシヤ湾の漁業資源に関する調査を行ない、これが現在の南方漁業公社(SHILAT JANOUB, Persian Gulf Fisheries Co.) 設立の基礎と

なり、その後1950年デンマークの専門家による再度のペルシャ湾漁業資源の調査が行なわれ、更に1954～1955年には日本船勝田丸によるペルシャ湾一帯における漁業試験操業の実施を見ているが、これらは全てイラン政府の要請に基いたものとはいえその計画の立案乃至操業の実施に関してはその主導権の一切が外国人の手に委ねられていたとあって良く、イラン人自身によるイラン国水域に関する調査研究は現在まで殆ど見るべき記録乃至資料の入手が出来ずにいる。

但し最近における政府の開発計画の遂行に伴い(第11章に記載)水産に関する調査研究機関の設立も実現を見る傾向にあるので、調査研究要員の養成と併せてその業績成果も逐次発表されて来るものと思われる。現在設立中の調査研究機関の代表的なものをあげると：

(1) カスピ海におけるチョウザメその他魚類のふ化養殖施設

ソビエトの協力によりカスピ海岸RASHTの南方約25kmの地点に建設中のものでこれに研究センターが附設される。カスピ海産魚類の生態その他の究明を目的とするものであり、イラン、ソビエト併せて120名の研究員乃至技術者が配置されることになっておりその完成も間近い。

(2) ペルシャ湾における魚類資源の調査研究施設

アメリカ生物学者の協力によりペルシャ湾LAVAN島(第1図参照)に設立されるものでペルシャ湾産魚種の分類究明をその主目的とし、試料採集標本作製の上TEHRANに近々建設される自然科学博物館(Natural history museum)にこれを保管展示し、併せてペルシャ湾漁業資源の調査を行なうこととなっており、その計画はすでに具体化の域に達している。

第10章 漁民組織並びにその活動状況

カスピ海沿岸においては約4,000の漁民が北方漁業公社 (SHILAT SHOMAL, Northern Fisheries Co.) 指導の下に約200を算する漁業者協同体 (Cooperative) を組織しているが、ペルシャ湾並びにオーマン海地区にあっては、中央政府における設立の意向は強いものの、現在尙漁業協同組合組織の実現には至っていない。カスピ海における組合にあってもその当面の主目標はチョウザメその他魚類の密漁規制に置かれている模様であり、他に特記すべき程の活動状況をきいていない。

第11章 漁業開発計画

§1 イランにおける産業開発の過去と現在

1948年度を起点として開始されたイランの産業開発計画は1968年度をもってその第3次を終了、引き続き現在にあっては1973年度にその終期を迎える第4次計画の実施に入っている。第61表に示す

◎第61表：イランにおける産業開発計画の推移

通り第1次、第2次の両期にあってはその成果に必ずしも見るべきものを残し得ず、この国の開発計画に大きい期待のもてる経過を示

次	期 間	経 過 乃 至 結 果
1	1948~1955	農業 (土地改革)、石油、さして成果大ならず
2	1955~1962	通信、社会施設にやゝ成果を見る
3	1962~1968	港湾、ダム、通信、セメント、その他軽工業
4	1968~1973	現在計画実施中

し始めたのは1962年~1968年の間に完了を見た第3次計画にあるといえよう。水産関係に限って見ればBANDAR ABBAS, BANDAR BUSHIRE, BANDAR PAHLAVYにおける港湾施設の拡充, BANDAR ABBAS生産地冷蔵庫の増設, ペルシャ湾における母船式エビ漁業操業に対処すべき冷凍母船 (3,677トン) の新規購入, BANDAR PAHLAVY におけるカスピ海産チョウザメのふ化並びに生態調査研究センターの新設その他があげられるが、何れにせ

よこの第3次計画の成果に自信を強めた政府は第4次計画の樹立に当ってはその対象範囲を各分野にわたって拡げ、第62表に示す予算を計上、1968年3月よりその実施に入り現在に至っている。この予算に基く第

◎第62表：第4次開発計画予算配分（企画庁、単位Rls100万）

区 分	予 算	区 分	予 算
農、林、畜、水産	65,000	都 市 開 発	7,000
鉱 業、工 業	99,000	建 設、家 屋	23,000
ガ ス、石 油	26,300	教 育	35,000
水 利	48,500	文 化	1,800
電 力	38,000	銀 光	3,800
通 信、輸 送	80,000	保 健、医 療	13,750
ラジオ、テレビジョン	20,300	社 会 施 設	4,850
地 方 開 発	9,100	調 査、地 域 開 発	4,600
		計	480,000

4次計画中に織り込まれて
いる目標の内より水産物の
開発増産に直接関接関与す
ると思われるものを第
63表に抜粋する。
第3次計画終了期までに
おける水産関係の成果につ
いては必ずしも特筆に値す
るものを収めて来たとはい

◎第63表：第4次開発計画における水産開発関与分野の主目標（企画庁）

区 分	開 発 計 画 の 主 目 標
農、林、畜、水産	人口増加に見合う一般食糧の増産、畜肉、魚肉蛋白給源28%の増産
通 信、輸 送	道路延長新設17,102 km（内完全舗装4,602 km）、鉄道新設1550 km、港湾荷扱能300万トン（75%）増
電 力	現在の450,000 万キロワットを1,200,000 万キロワットに増
地 方 開 発	給水施設の整備を含む地域開発
都 市 開 発	各種訓練センターの設立（13センター）
教 育	現在文盲率70%を40%に低下、初等、中高等、職業学校の増設、大学の充実、科学調査研究の振興

えまいが、第4次計

◎第64表：農林畜水産物第4次増産計画（企画庁）

画にあっては、ベル
シャ湾並びにオーマ
ン海沿岸にわたる南
部イラン地域の開発
に対する政府の積極
的な意欲と組み併せ

生産 区分	1966年		第4次計画末（1972～1973）		
	生産高（トン）	Rls.100万	生産高（トン）	Rls.100万	増加比
農、林産物	11,437,160	71,770	19,130,260	102,678	67.3
畜 産 物	2,168,187	39,793	2,645,883	53,677	350
水 産 物	15,000	1,057	30,000	2,114	100
計	13,620,347	112,620	21,806,143	158,919	40.7

られ、水産物については第64表に記載の通り金額にして100%の増産が計画され、これに必要な漁港施設、仲經冷蔵庫、道路、船舶、電力供給、教育、調査研究といった面に関しても次節

に記載する如く期待すべき計画が組み込まれている。これを要するにこの国における水産（漁業）開発は第4次計画開始の現時点よりその成果に期待をかけるべきであろう。

§ 2. 第4次開発計画 中漁業（水産）関係事項

第4次開発計画の中に組み込まれている漁業（水産）関係の事項につき、現在すでに実施の段階に入っているもの、乃至近い将来において着手の予定にあるものに関しその現状を夫々項目別に記載する。

(1) チョウザメのふ化養殖（第9章 § 2 参照）

- (i) 設立の経緯：ソビエト水産研究所（Soviet Fisheries Institute）の設計並びに技術指導により総経費460万ドルをもって設立。
- (ii) 所在地：カスピ海岸RASHTの南方約25 km（第4図参照）
- (iii) 施設規模並びに生産高：第65表に記載。設備資材の85%はソビエトより輸入。

◎第65表：カスピ海チョウザメふ化養殖施設規模

敷地面積	ふ化養殖池				年間生産高	
	数	水深	総面積	ふ化卵	CAVIAR	魚
ヘクタール		m	ヘクタール		t	t
131	96	2	2	700万	120	1250

- (iv) 事業の現況：1970年4月施設の殆どが完成。当初6ヶ月間はソビエト技術者が指導の予定。

- (v) カスピ海産魚類の生態に関する調査研究センター併設。要員はソビエト、イラン相方を併せ120人。

(2) 港湾施設の整備拡充（第9図参照）

- (i) 対象港湾並びに計画の内容：第66表に記載の通り各港湾に対する施設の整備拡充、こ

◎第66表：第4次計画による港湾の拡充（クレジット単位：Rls. 100万）

港 名	拡 充 , 新 設 内 容	クレジット
BANDAR SHAHPOOR	港湾施設拡充, 造船所新設	1,650
BANDAR ABBAS	倉庫(3), 造船所新設, 港湾整備	1,700
BANDAR BUSHIRE	港湾浚渫	150
BANDAR PAHLAVY	倉庫新設, 防波堤整備	200
GULF OF GORGAN	港湾施設拡充	750
ペルシャ湾漁港	CHAH BAHAR, JASK, LENGEH, DAYER	600

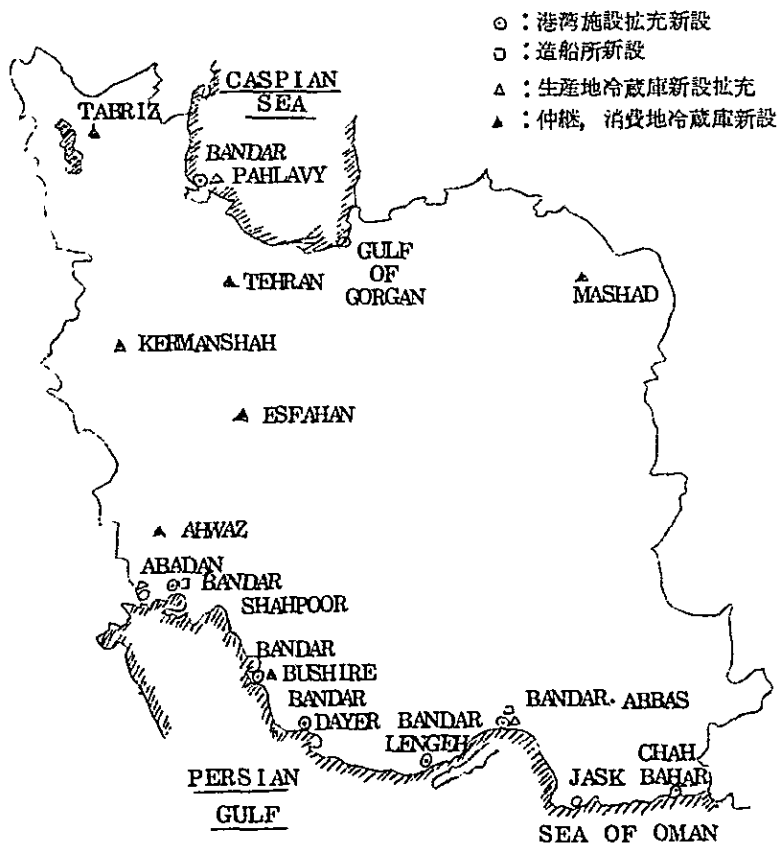
れに附随する倉庫の新設、さらに BANDAR SHAHPOOR, BANDAR ABBAS の両港における造船所乃至船舶修理施設の新設。これに必要な政府クレジットの割当て額は夫々表記の通りである。

(ii) 漁港施設：オーマン港並びにペルシヤ湾沿岸の各漁業基地は現在殆ど見るべき施設を備えておらず、この中基地として重要性の高い CHAH BAHAR, JASK, BANDAR LENGEH, BANDAR DAYER の各港の施設に対し新設に近い拡充整備を行なう。

(3) 冷蔵庫の新設、増設（第9図参照）

第4章 § 5 に既述の南方漁業公社（SHILAT JANOUB, Persian Gulf Fisheries Co.）の計画による KHORAMSHAH 並びにペルシヤ湾沿岸2～3の漁業基地に対する冷蔵庫新

◎第9図：第4次開発計画による施設の拡充地図



設に加え、第67表の通りの生産地、仲継地乃至消費地における冷蔵庫の建設が計画されており、これ等が完成の時には南部沿岸よりの道路その他の輸送機関の整備と相まって水産物の全国的普及に大きな役割を果たすものと期待出来る。

◎67表：第4次計画による冷蔵庫の新增設（この他南方漁業公社による別計画あり）

区 分	地 名	収 容 能 力	摘 要
生産地	BANDAR ABBAS	当初 150トン	70万ドル経費をもって将来1,000トンに増設、Persian Gulf Food Producing Co.を設立
冷蔵庫	ABADAN	1,500トン	イタリー技術の導入により1972年完成予定
消費地	TEHRAN	当初10000トン	ソビエトとの契約により将来16,000トンとする、農、畜、水産総合冷蔵庫
乃至	TABRIZ	12000立方m	農、畜、水産総合冷蔵庫
仲継地	MASHAD	7000立方m	農、畜、水産総合冷蔵庫
冷蔵庫	ESFAHAN	—	農、畜、水産総合冷蔵庫
	AHWAZ	—	農、畜、水産総合冷蔵庫
	KERMANSHAH	—	農、畜、水産総合冷蔵庫

(4) 水産資源の調査並びに保護

(Ⅰ) ペルシヤ湾における魚類資源調査

アメリカ生物学者の協力によりペルシヤ湾LAVAN島を中心として計画されているもので詳細は第9章§2に記載。

(Ⅱ) ペルシヤ湾におけるエビ資源の保護

南方漁業公社は一方において母船式エビ漁業を採用のうえエビの生産増強を図ると共に、他方においては国内生物学者に依頼してペルシヤ湾産エビの生態につき調査を行ない、結果その産卵期を一応3月～6月の間と推定、この間における禁漁期の制定に関し政府との間にあって検討中である。

(5) 水産製品に対する基準の設定

イランにおける各種製品についての基準乃至規 第68表：ISIRI規格製品（1968）

格は現在 Institute of Standards and Industrial Research of Iran（略称 ISIRI）において全てにわたり認定をされており1968年現在第68表に記載の商品が規格合格品となっている。水産製品については現在全て

品 種	件	品 種	件
植 物 油	3	グ リ ー ス	2
アルコール飲料	2	紙	1
ビスケット	2	タ イ ル	1
酢	1	高 圧 釜	1
ビスタチオ	1	ガスシリンダー	2
石鹼、グリセリン	3	計	19

が規格外製品となっているが、ISIRIの規格制度そのものの歴史がさして古いものではない関係もあり、水産製品の検定にまでは手の伸びていないことが実状と考えられる。生産量の増加に伴い水産製品の質についても当然その向上が望まらべきであり、水産製品にISIRIの検定証紙が貼られるのも遠い将来ではないと思われる。

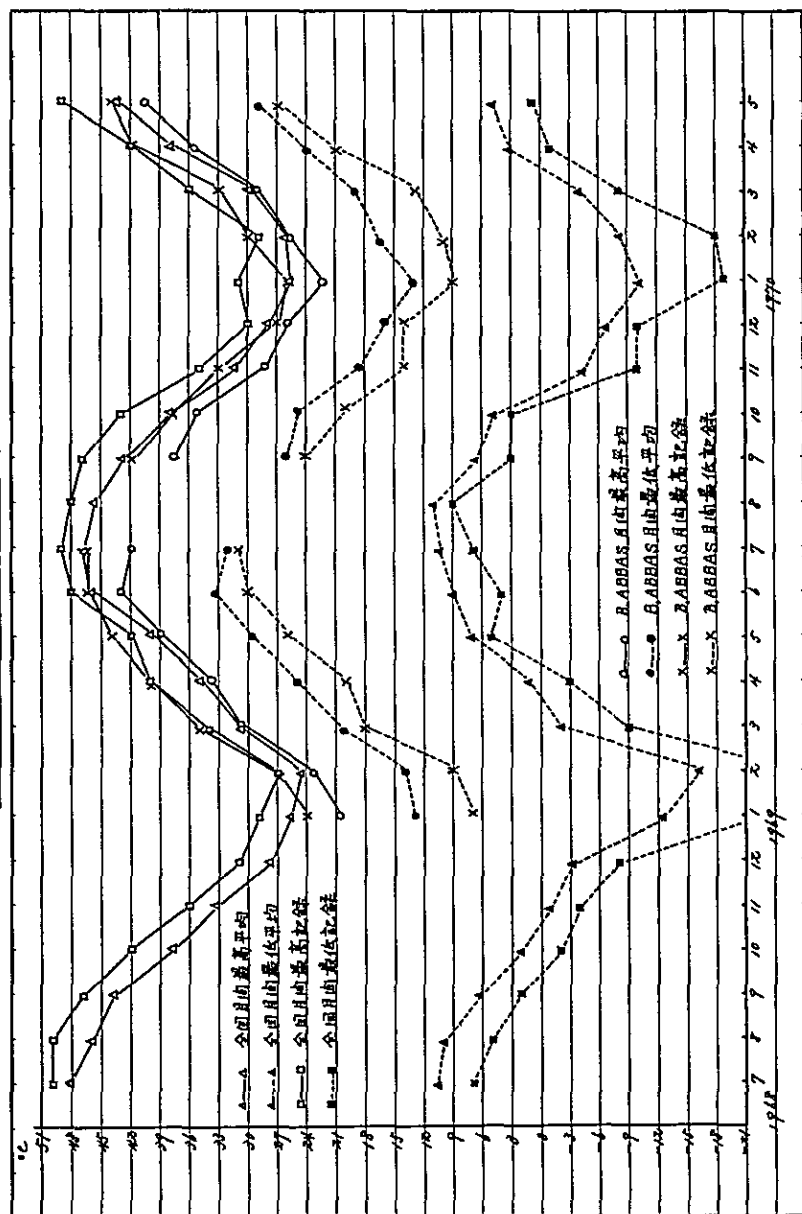
以 上

・ 参 考 資 料

- (1) Iran Trade and Industry; IRAN '69, 1969年10月
- (2) 日刊Tehran Gournal; 1968, 10.1~1970.6.25
- (3) 日本水産物輸入協会; イランに於けるエビ買付促進調査報告, 1968年1月
- (4) イラン資源局; イラン南方水域の漁業計画, 1966年
- (5) 沢田俊三, 酒井洋二; イランにおける水産技術指導総合報告, 未発表

以 上

第3図 気温推移(第13表より)



第69表 ペルシヤ湾産主要魚種1覧表

種名	和名	イラン名(沿岸地方語)	全長	漁法	漁期	水場	利用	売値	小売値
<i>Idarengula gunasi</i> BLEEKER	さつぱ	MOMAGH	6~18	旋網, 地曳網	11~2月	稍多	缶詰, 塩蔵, 鮮	5	10
<i>Ablennes masomella</i> (VALENCIENNES)	たづ	KILMOI	50~70	GARGUR	10~5月	少	鮮食	5	10
<i>Idemiramphus japonicus</i> (BREVOORT)	さんようざより	MORAN	30~40	地曳網	10~5月	少	鮮食	10	15~20
<i>Mugil cephalus</i> LINNAEUS	ほら	BIYAH	30~50	地曳網	3~4月	少	冷凍, 鮮食	30	40
<i>Aphyrama picuda</i> BLOCH & SCHNEIDER	おにかます	GHOTER	50~150	流網, GARGUR	10~5月	少	冷凍, 鮮食	15	25
<i>Thunnus thynnus orientalis</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	まぐろ(くろまぐろ)	HAVOOR	1m以下	流網	10~5月	多	缶詰, 塩蔵	(尾) 42	(尾) 120
<i>Thunnus tongol</i> BLEEKER	こしなめ	HAVOOR	85~95	流網	10~5月	少	缶詰, 塩蔵	(尾) 42	(尾) 120
<i>Katsuwonus pelamis</i> (LINNAEUS)	かつお	HAVOOR MASGHATI	80~90	流網	散発的	稀	缶詰, 塩蔵	(尾) 20	(尾) 60
<i>Euthynnus affinis yalta</i> KISHINOUE	すま	ZARDEH	80~90	流網	10~5月	稍多	缶詰, 塩蔵	(尾) 20	(尾) 60
<i>Rastrelliger kanagusta</i> (CUVIER)	くろくまー	TELAL	30~30	流網	散発的	稀	鮮食	19 ⁵	30
<i>Scomberomorus niphonius</i> (CUVIER)	さわら	GHOBAD	40~80	流網	冬期	稍多	冷凍, 鮮食	19 ⁵	25
<i>Scomberomorus commersoni</i> (LACÉPÈDE)	よこじまさわら	GHOBAD	100~150	流網	散発的	稀	冷凍, 鮮食	19 ⁵	25
<i>Acanthocybium solandri</i> (CUVIER)	かますさわら(おきざわら)	SHIR MAHI	100~150	流網	10~5月	少	冷凍, 鮮食	20	30
<i>Megalaspis cordyla</i> (LINNAEUS)	おにあじ	GISH	30~40	流網	11~5月	少	冷凍, 鮮食	9	15
<i>Caranx equula</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	かいわり	GISH GERD(MOGHAVA)	20~30	流網, GARGUR	10~5月	少	冷凍, 鮮食	15	20
<i>Caranx asfasciatus</i> (QUOY & GAIMARD)	なめあじ(きろあじ)	GISH GERD(MOGHAVA)	20~30	流網, GARGUR	10~5月	稀	冷凍, 鮮食	15	20
<i>Caranx ichikawaii</i> WAKIYA	なめあじ, くろなめあじ	GISH GERD(MOGHAVA)	20~80	流網, GARGUR	10~5月	多	冷凍, 鮮食	19 ⁵	25
<i>Elagatis bipinnulata</i> (QUOY & GAIMARD)	つみぶり	TOLLOT	100~150	流網	3~4月	稀	鮮食	—	—
<i>Chorinemus orientalis</i> TEMMINCK & SCHLEGEL	いけがつか	SARM	30~70	流網	12~5月	少	冷凍, 鮮食	9	15
<i>Seriola rivoliana</i> VALENCIENNES	ひれなめかんぱち	PORO	60~80	流網, GARGUR	10~5月	稍多	冷凍, 鮮食	15	25
<i>Rachycentron canadum</i> (LINNAEUS)	すぎ	SEKALEH(SEKALA)	70~100	流網, GARGUR	10~5月	少	冷凍, 鮮食	15	20~25
<i>Pampus argenteus</i> (EUPHRASEN)	まなかつお	HALVA SEFID	20~40	流網, GARGUR	10~5月	少	冷凍, 鮮食	20	30
	くろまなかつお	HALVA SIAH	20~40	流網, GARGUR	10~5月	少	冷凍, 鮮食	19 ⁵	25
<i>Epinephelus fasciatus fasciatus</i> (FORSKÅL)	あかはた	HAMOOR GHERMEZ	約 30	GARGUR	10~5月	少	冷凍, 鮮食	19 ⁵	20
<i>Epinephelus chlorostigma</i> (VALENCIENNES)	ほうせきはた	HAMOOR	30~80	GARGUR	10~5月	多	冷凍, 鮮食	19 ⁵	20
<i>Epinephelus farias</i> (THUNBERG)	のろくち(ほしはた)	HAMOOR	30~40	GARGUR	10~5月	多	冷凍, 鮮食	19 ⁵	20
<i>Lutjanus sebae</i> (VALENCIENNES)	せんねんたい	CHAMAN	30~80	GARGUR, 流網	10~5月	稍多	冷凍, 鮮食	19 ⁵	20~25
<i>Pristipomoides filamentosus roseus</i> (CASTELNAU)	おおみめ	SOBEITI(SORKHOO)	30~50	GARGUR	11~5月	稍多	冷凍, 鮮食	19 ⁵	25
<i>Parastipoma trilineatum</i> (THUNBERG)	いさき(いさき)		20~30	地曳網, GARGUR	12~2月	少	鮮食	—	—
<i>Nemipterus bathyzonus</i> SNYDER	やこいとより(きいとより)	GROBAZARDOO	30~35	GARGUR	散発的	稀	鮮食	—	—
<i>Mylio latius</i> (HOULTUYN)	きぬち(きぬち)	SANGSAR	25~35	GARGUR	10~5月	稍多	冷凍, 鮮食	9~15	18~20
<i>Ergasilus cardinalis</i> (LACÉPÈDE)	たれこたい	SHANAK(CUPAL)	30~40	GARGUR	10~5月	少	冷凍, 鮮食	15	18~20
<i>Xethrinus choeres hymebus</i> (BLOCH & SCHNEIDER)	はまふえふき(うぶ)	SHAHARI(GEDIR)	20~70	GARGUR	10~5月	稍多	冷凍, 鮮食	6	15

種 名	和 名	イラン名(沿岸地才語)	全 長	漁 法	漁 期	水場	利 用	漁 値	小 売 値
<i>Tringa mitsukurii</i> (JORDAN & SNYDER)	ニヘ	MISH MAHI	cm 110~150	GARGUR, 流網	散発的	稀	鮮食	19.5	20~25
<i>Argyrosomus japonicus</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	おおにへ	MISH MAHI	70~100	GARGUR, 流網	11~5月	稍多	冷凍, 鮮食	19.5	20~25
<i>Aplegmathus fasciatus</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	いしだいい	GOL	30~30	GARGUR	散発的	稀	鮮食	9~15	18~20
<i>Sillago japonica</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	さす(しろさす)	SHOURT	15~20	地曳網	11~4月	少	冷凍, 鮮食	20	20
<i>Scombrops boops</i> (HOULTUYN)	むつ	RASHGOD	40~60	GARGUR, 流網	散発的	稀	鮮食, 冷凍	20	25
<i>Drepane longimana</i> (BLOCH & SCHNEIDER)	すたれたい	DOKHTARE NAKHADA (ARUS)	20~25	GARGUR	散発的	稀	鮮食, 冷凍	15	20~25
<i>Paralichthys olivaceus</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	みらめ	KAESHAK	20~25	GARGUR	散発的	稀	鮮食, 冷凍	19.5	25
	かめいの類	KAESHAK	20~25	GARGUR	散発的	稀	鮮食, 冷凍	19.5	25
<i>Cynoglossus robustus</i> GRÜNTHER	いぬのした	KAESHAK	10~15	GARGUR	散発的	稀	鮮食, 冷凍	19.5	25
<i>Balistes capistratus</i> SHAW	めがねはき	SAFY	約 20	GARGUR	散発的	稀	鮮食	19.5	20

B. 将来有用魚種として積極的漁獲の対象と取り得る魚種

種 名	和 名	イラン名	全 長	漁 法	漁 期	水場	摘 要
<i>Sphyrna zygaena</i> (LINNAEUS)	しろしゆかくさめ	CHAKOSH MAHI	cm 150以上	流網	10~5月	少	現在魚糧, ふかみれ, 肉用
<i>Carcharodon carcharias</i> (LINNAEUS)	ほほじろ	KUSEH	70~200	流網	10~5月	少	今 上
<i>Carcharhinus longimanus</i> (POEY)	よこめ	KUSEH	50~150	流網	10~5月	少	今 上
<i>Pristiophorus japonicus</i> (GRÜNTHER)	のこぎりさめ	AREH MAHI	最大 400	流網	散発的	稀	今 上
<i>Rhynchotatus djiddensis</i> (FORSKÅL)	とんがり	BIL MAHI	100~150	流網	散発的	稀	今 上
<i>Idistiophorus orientalis</i> (TEMMINCK & SCHLEGEL)	はしろうかじき	MANTOL		流網	散発的	稀	現在魚糧
<i>Makaira marlina</i> JORDAN & HILL	しろかわ(しろかじき)	MANTOL		流網	散発的	稀	今 上

(備考) (1) A表中に示ける魚価の単位は1kg当りのリアル(RL, 1RL = 44.70)価, 但しまぐろ, かつお類にあつては漁値は1尾当り, 又小売値は4半身(又は車切りの1/2相当)単位なるも表中にはこれを1尾当りに換算した。

(2) 漁法は主として操業される漁法を記載した。

(3) 西暦のため例年6月~8月の間は漁業の操業は中断される。

(4) 魚体の全長については漁獲稀のものにあつては時々入手の少数試料の測定結果により, その他のものについては可能な限りにおいて多数の試料の測定を行なふ。

(5) 水揚量の順位は多, 稍多, 少, 稀とした。

(6) B表に記載のものは, 鱈の存在が判然とせぬため, 同教団にあつては宗教上の理由により食慣習をきため現在は魚糧用原料とされており従つて積極的な漁獲の対象とはされていない。しかしふかみれ製品, 冷凍品として輸出の公算如何によつては積極的に漁獲対象とする操業を期待出来る。

筆 者 紹 介

沢 田 俊 三

大正5年(1916) 東京に出生

昭和14年 水産講習所本科製造学科卒業

北海道水産試験場 北海食品缶詰工場に勤務

日本冷凍食品検査協会研究室長を歴任現在海外技術協力事業団嘱託

この間、インド・マングロール水産加工訓練センター(1962年~1966年)

イラン・バンダルアバス漁業公社(1968年~1970年)

に水産加工専門家として勤務

